
ミラクルスーパーぺーパーマリオ

ペーパークラフトマリオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミラクルスープーぺーパーマリオ

【著者名】

N4937R

【あらすじ】 ペーパークラフトマリオ

ここには平和なスイートランド
背中に羽の生えた小人たちが楽しく暮らしていた
そしてこのスイートランドにはドリームジュエルっていう、伝説の
宝石がある
ドリームジュエルを8つ全部集めるといどんな願いでも叶えてくれる
という
そのスイートランドに魔の手が忍びよっていた

キャラ紹介

マリオ

言わずと知れたキノコワールドの超英雄
お馴染みのクツバ軍団の他、ダークスペーシアやデスマニムスと戦い
数々の危機を救つて来た

ルリナ

ビビアンと瓜二つの影族の子供で、カゲの女王の娘
エターナルスターのマリオと同等の実力を持っている

<http://3092.mitemin.net/i23276/>

ミルフィー

スイートランドから来た羽の生えた小人
ドリームジュエルを集めるため
マリオ達と一緒に行動する

モンババ

モンババ城の城主であるドラゴン

タルトウートによって気が動転してしまった
マリオのメテオパンチで正気に戻り、マリオ達にドリームジュエル
を渡した

スイフ

高名な術師、自分の家を不思議な力で見えなくして姿を晦ませた
マリオ達に協力し、パフェーラの無敵の力を打ち破る

スノーズー

フリーズパレスに棲む氷使い

圧倒的な冷氣でマリオとバッガルフを氷漬けにしたが
最後はルリナによって倒されてしまった

メフィスト一味

ドリームジュエルを狙う謎の一味

メフィスト

ドリームジュエルで良からぬ事を企む一味のリーダー
部下たちにドリームジュエルを集めよう命じてる

シフォリア

メフィストの側近

強力な催眠波で相手を意のままに動かせる

モンブラボ

メフィストの部下の一人

自慢の怪力で相手をねじ伏せる戦いが得意

パフェーラ

メフィストの部下の一人

普段は少女の姿をしているが、変身すると怪物になる

タルトウート

メフィストの部下の一人

怪しげな術と次元技を使い、相手を翻弄する

ミス・プリンセス・モモ

新しく入ったメフィストの部下
しかしその正体は……

プロローグ

「ここは平和な国スイートランド

ミルフィー「きやははは

楽しそうに水遊びをするミルフィー

そこへメフィストとシフォリアがドリームジュエルを狙つてやって
来た

小人「女王様に知らせなきや！！」

小人たちは女王に行つた

メフィスト「ドリームジュエルいただき！」

次々とドリームジュエルを奪うメフィスト

ミルフィーが最後の一つを持って逃げてた

メフィスト「そいつをよこせ——！」

最後のドリームジュエルを持って逃げるミルフィーを追うメフィスト

女王「はっ——！」

女王がメフィストに不思議な力を使う

シフォリア「メフィスト様！！」

メフィスト「しまった」

女王の力によつてメフィストの持つていた7つのドリームジュエル
が飛び散ってしまう

そしてミルフィーもドリームジュエルと一緒にどこかへ消えてしま
つた

シフォリア「大丈夫ですか？メフィスト様」

メフィスト「まあいい、あんな宝石いつでも集められる。城へ戻る
ぞ」

メフィストと側近のシフォリアは城へ戻つていった

そしてここはキノコワールド

ヒュウウウウ　ドサ

ドリームジュエルと一緒にミルフィーが落ちてきた
プロローグ終わり

第1話 マリオとルリナとミルフィー

「うむキノコワールド

ミルフィーが宝石を持ちながらソレヨレと歩いてた

一方にはマリオの家

マリオとルリナがマリオカートWiiで対戦していた

マリオ「赤い火もくじえ」

ルリナ「甘いわよ」

赤い火で攻撃したマリオだが、バナナで防がれてしまつ

激しい追っかけが続き、ついに3週目

ドゴオオオオン

トゲゾーの火をくらい、大幅ロスしてしまつルリナ

でも何とか逃げ切り、辛くも勝利

ルリナ「次はどこにする?」

マリオ「せうだな、Gのマリオサークットだ」

ピンポン

次の対戦をしようとした途端、チャイムが鳴った

マリオ「ルイージだな、ルリナ悪いけど出でくれんか?」

ルリナ「いいわよ」

玄関のドアを開けるルリナ、そこには宝石を持って倒れてるミルフィーがいた

ルリナ「マリオ!早くベッドだ!」

マリオ「どうしたんだ?」

大慌てで玄関へ走るマリオ

マリオとルリナはミルフィーをベッドへと運んだ

一方こちらは暗黒魔殿

部屋でモンブランボとタルトウードがメフイストヒシフオリアの帰りを待っていた

モンブランボ「99997!9998!9999!10000!...!...!...!

バーベルを1万回持ち上げて汗びっしょりのモンブランボ

タルトウード「相変わらずだねモンブランボくん、筋肉だけじゃなく脳も鍛えないと」

会話をするモンブラボとタルトウート、そこへパフェーラが来た

パフェーラ「タルトウートの言つ通り、力だけじゃ無理よ筋肉おバカさん」

モンブラボ「なんだとーもつべん言つてみるーーー！」

バカにされ、ブチ切れるモンブラボ

数十秒後、メフィストとシフォリアが帰つて來た

メフィスト「やめんか！モンブラボ」

モンブラボ「はい……」

メフィストに注意され、反省するモンブラボ

パフェーラ「メフィスト様、例の宝石は手に入れられましたか？」

メフィスト「あと少しのところで邪魔が入つてしまつた

シフォリア「ドリームジュエルは8つとも別々の場所へ飛ばされてます、しかもその内の1つは誰かの家の近くにあります」

スイートランジでの出来事を部下たちに知らせるメフィストとシフォリア

モンブラボ「我らの願いを叶えるにはあの宝石が必要！命に代えても手に入れてみせますーーー！」

ドリームジュエルを探しに出ていくモンブランボ

タルトウート「モンブランボくんだけじゃ心配だから僕も行こう」

タルトウートも外へ出て行つた

一方こじらはマリオの家

ミルフィー「ん……」

ルリナ「気が付いたのね」

ミルフィー「こじらは？」

マリオ「安心しろ、こじらは俺の家だ」

ミルフィー「私の名前はミルフィー、お願ひです！助けてください！」

マリオ達に助けを求めるミルフィー、マリオの新しい冒険が始まろうとしていた

第1話終わり

第2話 ミルフィーの不思議な力

泣いてマリオ達にお願いするミルフィー

ルリナ「落ちついで、何があつたか話してくれる?」

ミルフィーはマリオ達に事情を話した

ミルフィー「私のすんでる所はスイートランドっていう平和な所なの。でもそこへメフィストたちがやって来たの」

マリオ「メフィスト? 誰だそいつは?」

ミルフィー「メフィストは私たちの大事なドリームジュエルを奪いに来たのです」

ルリナ「ドリームジュエル?」

ミルフィー「これです」

唯一手元に残っているドリームジュエルをマリオ達に見せるミルフィー

マリオ&ルリナ「これがドリームジュエル」

ミルフィー「メフィストはドリームジュエルを8つのうち7つまで奪い、私が持ってるこの1個も狙つてきました

女王様のおかげでメフィストの持つてた7つのドリームジュエルはこの世界にバラバラに散つていったのです」

ルリナ「セシエ//ミルフィーも最後の一ひと一緒にここに来ちゃつたのね」

ミルフィー「はい、ドリームジュエルにはどんな願いでも叶える力があるのです」

ドリームジュエルの事をマリオ達に話すミルフィー

ルリナ「だつたらすぐに行かなきやー全てのドリームジュエルがメフィストの手に渡つたらどんな恐ろしい事になるか」

マリオ「そのメフィストって奴をぶつとぼしてやる

ミルフィー「ありがとうございます」

家の留守をルイージに任せ、マリオとルリナとミルフィーの3人はドリームジュエルを探しにいった

マリオ「ところで、ドリームジュエルはあるんだ？」

ミルフィー「待つて、今このドリームジュエルの声を聞くから」

ミルフィーは自分の持つてゐるドリームジュエルに心を集中させた

ミルフィー「ドリームジュエル……ここから一番近いあなたの仲間は……」

数十秒後、ミルフィーが目を開いた

ミルフィー「ここから一番近いのはハラハラ草原の向こうにあるわ

マリオ「じゃあ、まずはハラハラ草原を目指そう」

マリオ達はハラハラ草原を目指して出発した

少し進むと大きな崖があった

マリオ「それ

クルン

次元技を使うマリオ、しかしどとも渡り切れるものではなかった

マリオ「どうする?」

ミルフィー「私に任せて、ん~~」

ピロロロロン

ミルフィーは不思議な力を使って見えないブロックを出現させた

マリオ「おおーす」「ぞーー!」

ミルフィー「これで先に進めるわ」

マリオとルリナはミルフィーが出したブロックを足場にして崖を渡りきる

崖を越えて先を進むマリオ達、ドリームジュエルは手に入れられる

のか?
第2話終わり

第3話 力を合わせて突き進め

ハラハラ草原を目指し、進んでいくマリオ達

一方こちらはハラハラ草原のある場所

メフィストの部下の一人、モンブラボがドリームジュエルを探してた

モンブラボ「ドリームジュエル、どこにあるんだ?」

ドリームジュエルを探すモンブラボ

その頃暗黒魔殿ではパフューラが退屈そうしていた

パフューラ「あーあ、モンブラボもタルトゥートも行っちゃったし」

メフィスト「案ずるな、直にお前にも活躍の場を設けてやる」

一方マリオ達はハラハラ草原を目指していた

少し進むと前からゴロンが転がって来た

マリオ「それっ!!

クルン

次元技を使い、ゴロンを避けるマリオ達

通りすがると次元技を解除してさらに進む

進むと今度は行き止まりで立ち止まつてしまつ

ミルフィー「ん~」

不思議な力を使い、辺りを調べるミルフィー

ミルフィー「ここを押してみて」

ミルフィーが指を描した所を押すマリオ

ゴロゴロゴロゴロ

地響きが鳴り、壁が開いていく

開いた壁の間を通り、先を進むマリオ達

少し進むとまたゴロンが転がってきた

マリオ「また同じパターンか」

クルン

余裕の表情で次元技を使うマリオ、しかし今度は逃げ場が無かつた

ミルフィー「まあいわー逃げ場が無いわ

ルリナ「大丈夫、あたしにつかまつて

マリオとミルフィーはルリナにつかまつた

ルリナ「カゲがくれ」

シユウウウウン　ﾟロﾟロﾟロﾟロ

影の中に入つて、ゴロンをかわすマリオ達

通り過ぎると影の中から出てさらに進むのだった

進むとベタンが現れた

ピヨン ムギュ

ジャンプしてベタンを踏みつけるマリオ

進むと田の前が縁いっぱいの大草原に囲まれてた

ミルフィー「あそこがハラハラ草原よ」

ルリナ「あの向こうにドリームジュエルがあるのね」

ハラハラ草原を視界にとらえたマリオ達は一気に走りだした

その頃モンブランボはハラハラ草原の辺りを探してた

そしてマリオ達はハラハラ草原に着いた

ルリナ「風が気持ちいいわ」

マリオ「田指すはドリームジュエル！ いざ出発

ハラハラ草原に辿り着いたマリオ達はドリームジュエルを探しに行つた

しかしマリオ達の行く先にはメフィストの部下の一人、モンブランボ
ガ待ち受けているのだった

第3話終わり

第4話 星の岩の謎を解け

ハラハラ草原を進むマリオ達

少し進むと看板があった

マリオは看板を読んだ

マリオ「えーと…なになに? 星の岩を調べれば新たな道が切り開かれる」

ルリナ「たぶんその先にドリームジュエルがあるのね」

マリオ達は星の岩を探しに行つた

少し進むとサウンドディーが襲ってきた

ウォンウォンウォン

サウンドディーの音波攻撃をかわすマリオ達

マリオ「これでもくらえ」

ドカアアアアアン

爆弾でサウンドディーを1匹倒すマリオ、もう1匹もびっくらしててる間にルリナに倒される

サウンドディーを倒し、先へ進むマリオ達

進むと今度はクリボーが20匹現れた

ルリナ「ファイア・ウェーブ！－！」

ファイア・ウェーブで20匹のクリボーを倒すルリナ

進んでいくと壁とジャンプ台があった

ジャンプ台で壁を飛び越えるマリオ達
敵のを倒しながら進んでいくマリオ達

行き止まつまで行つたが、星の城にもなかつた

マリオ「ないじゃないか！星の城なんて」

ミルフィー「もひ通り過ぎちゃつたかも」

ルリナ「戻りましょ」

マリオ達は次元技を使いながら来た道を戻つて来た

一方こちちはハラハラ草原のある場所

ドリームジュエルを探すのに疲れたモンブランボが小休止していた

モンブランボ「メフィスト様にお届けする前に死んでは元も子もない
からな」

その頃マリオ達は次元技を使いながら来た道を戻っていた

少し進むと星の形の岩があつた

ルリナ「あつたわー星の岩

クルン

次元技を解除するマリオ

マリオ「ここの岩が星の場所じゃないかー！」

ジャンプ台の横にあつた壁こそが星の岩だったのだ

2D視点で見ればただの壁だが、3D視点で見ると星の形の岩だ

ルリナ「ミルフィーお願い」

ミルフィー「任せて」

不思議な力を使い、星の岩を調べるミルフィー

すると星の岩が消え、土管が出てきた

出でた土管に入るマリオ達

土管から出るとハラハラ草原の違う場所に出てきた

土管から出で先を進むマリオ達

進んでいくとメフィストの部下の一人、モンブラボと遭遇した

第4話終わり

第5話 対決—モンブラボ

メフィストの部下の一人モンブラボと遭遇したマリオ達

モンブラボ「お前らは…?ん?」

ミルフィーの持つてたドーレームジュエルに目を向けるモンブラボ

モンブラボ「おおーそれじゃあそれでドーレームジュエル…そっちは渡してもいいのか」

ミルフィー「あなたメフィストの手下ね」

ドーレームジュエルを渡せと要求するモンブラボだが、ミルフィーはそれを拒否する

モンブラボ「な、な、な、牛、す、く、で、も、奪、つ、ま、で、…。」

ルリナ「それを言つたら腕すくでも奪つまで、とにかくドーレームジュエルは渡さない」

遙か上空ではもう一人の部下であるタルトゥートが高みの見物をしていた

タルトゥート「お手並み拝見させてもいいよモンブラボくん」

モンブラボ「生意氣な小娘だ!…!」

ドーレームジュエル

モンブラボのパンチで数メートル吹っ飛ぶルリナ

モンブラボ「そらそらそら——」

猛攻撃でルリナを攻撃しまくるモンブラボ

ミルフィー「このままじゃルリナさんが」

マリオ「大丈夫！大丈夫！」

ルリナの心配をするミルフィーだが、マリオは余裕だった

自慢の怪力で圧倒するモンブラボ

モンブラボ「ふん、弱すぎたようだな」

ルリナ「十分楽しんだかしり？」

モンブラボの言葉を聞いた途端、ニヤつとした表情になるルリナ

ルリナ「そろそろ遊びは終わるよ」

モンブラボ「ふざけやがって！」

怒ってルリナに攻撃するモンブラボ

ドカベキバキベコバキヤ

さつきとは打つて変わつてモンブラボを圧倒するルリナ

ルリナ「カゲぬけパンチ！－！」

バコオオオン

カゲぬけパンチでモンブラボをKOしたルリナ

ミルフィー「すごーい！」

マリオ「なつ、だから言つたろ」

ルリナの勝利に喜ぶミルフィー

数秒後、モンブラボが立ち上がった

モンブラボ「なんて事だ、メフィスト様に報告せねば

モンブラボはメフィストに報告しに去つて行つた

モンブラボを退け、先を進むマリオ達

進むとアルルタウンに辿り着いた

上空ではタルトウートが見ていた

タルトウート「さて、あいつらをちょっと斬してやるつかな

不思議な力を使い、移動するタルトウート

アルルタウンに着いたマリオ達はドリームジュエルの情報を得よう

と町の人たちに聞き出したのだった
第5話終わり

第6話 アルルタウンの伝説

アルルタウンでドリームジュエルの情報を聞くこととするマリオ達

マリオ「ドリームジュエル知りませんか?」

ルリナ「こうこう宝石なんです」

アルルタウン住人「いや、知らない」

ドリームジュエルを見せるマリオ達だが、住人達は全く知らないらしい

そこへ長老が来た

長老「おや? お前たんたちは?」

ルリナ「あなたが長老ですか?」

マリオ「おれ達ドリームジュエルを探してるんです」

ドリームジュエルを長老に見せるマリオ達

長老「ん? その宝石なら見た事があるぞ、数日前モンババっていうドラゴンが持つておった」

マリオ「モンババ?」

長老「モンババはこの村の守り神様じゃ」

長老はアルルタウンの伝説を話し始めた

長老「その昔、この町に巨大な悪が忍び寄り、人々は恐怖と絶望に支配されてた」

マリオ達にアルルタウンの伝説を話す長老

長老「誰もが全ての希望を捨てようとした時、天から1匹のドラゴンが舞い降りた、それがモンババじゃ、モンババは激しい炎で悪を追い払い、村の平和を取り戻したのじゃ」

ぐどぐどと語る長老、3時間が経過し、マリオ達はウトウトしていた

マリオ&ルリナ&ミルフィー「…………」

長老「とついわけで……って、ちゃんと話を聞いてたか！？」

長老の返事にコクンと頷くマリオ達

長老「それならよい

ルリナ「それでそのモンババはどうに住んでるんですか？」

長老「この先の古びた古城じゃが、まさか行く気じゃ？やめといた方がいい、あそこには侵入者を防ぐいくつもの罠があるんじゃ」

ルリナ「でもモンババに会つてドリームジュエルを渡してもらわないと世界が危ないんですね！？」

「マリオ「今メフィストっていう悪にやつがドリームジュエルを狙ってるんですね」

「長老「どうしてもと言つなら生き方だけでも教えてやりつ」

「長老はマリオ達に古びた古城への行き方を教えた

「長老「城は固く閉ざされ、入り口である青いブロックも城に住むもの以外にはその姿を見せない」

「マリオ「青いブロックはモンババたち以外姿を見せない」

「ミルフィー「でもドリームジュエルが城の中にあるならなんとしても入らないと」

「一方こじらは古びた古城の中

「ミルフィー「モンババ様、お出かけですか?」

「モンババ「ああ、久しづりにあの町の様子を見に行こうと思つてな」

「モンババはアルルタウンを見にいこうと外出しにいった

「その頃マリオ達はアルルタウンの宿で一泊していた

「マリオはゲームをやり、ルリナはしゅごキャラちゃんを読んでた

「ミルフィー「あしたはモンババの城へ乗り込もう、今日は明日に備えて早く寝よ!」

マリオ「そつだな、お休み」

ルリナ「お休み……」

マリオとルリナが眠りに入ると、ミルフィーも部屋の明かりを全て
消して自分も眠りに入る

そして夜があけた……

第6話終わり

第7話 進め！モンババ城を目指して

アルルタウンの宿で一泊したマリオ達

マリオ「それじゃ、モンババ城を目指して出発！－」

マリオ達はモンババ城を目指して出発した

一方こちらはモンババ城

モンババに仕えるドラゴン兵の2人が宝石を磨いてた

デリバーフルーツ

「つて」
ドラゴン兵B「何でもモンババ様はこの宝石には不思議な力がある

ドラゴン兵A「不思議な力か……」

その頃マリオ達はブロッキー山脈を進んでた

マリオ「ハツホツハツ」

ジャンプで次々と進んでくマリオ達

進んでいくと今度は壁があり、下に僅かな隙間しかなかつた

ルリナ「あたしにつかまって、カゲがくれ！……」

シユウウウン

マリオとミルフィーはルリナにつかり、影の中に入つていく

影の中に入つて壁の下を通りていくマリオ達

通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

影の中から出て先を進むマリオ達

一方こちちはアルルタウン

モンババが町に来ていた

モンババ「この町は最初の時とは変わってるが平和だ」

アルルタウンの平和に喜ぶモンババ

しかしその遙か上空ではメフィストの部下の一人、タルトウートが
見ていた

タルトウート「あいつは使えるかも」

タルトウートは何をするつもりなのか？

そしてマリオ達はブロッキー山脈を進んでた

少し進むとトゲダルマーが現れた

マリオ「おりゃああ

グッサアアアア

トゲダルマーに接近したマリオだが、刺されてしまつ

マリオ「いてて、うかつだつた」

ルリナ「魔法の炎……」

魔法の炎でトゲダルマーを攻撃するルリナ

トゲダルマー「ギャアアアアアアア……」

トゲダルマーは跡形もなく灰になつた

一方こちらはアルルタウン

モンババ「そろそろ城に戻るか」

モンババは自分の城目指して飛んで行った

そしてマリオ達はモンババ城目指して進んでた

進むとクリボーと遭遇した

クリボー「ホームランにしてやる

マリオ「ルリナ」

マリオはクリボーを掴むとルリナに向かって放り投げる

そして彼女は炎のバットを作り出した

ルリナ「それ」

カキー———ン

炎のバットでクリボーを空の彼方へ打つルリナ

ルリナ「はい、場外さよなら負けね」

クリボーを軽く退け、先を進むマリオ達

進んでいくについに大きな城を発見したのだった

第7話終わり

第8話 進入モンババ城

ついに大きな城を発見したマリオ達

ミルフィー「ここがモンババ城」

マリオ「ミルフィー、あのドアを調べてくれ」

ミルフィーは不思議な力を使って入り口のドアを調べた

ルリナ「どうだつた?」

ミルフィー「凄く固く閉ざされているわ」

ルリナ「たしか入り口のスイッチは城に住んでる者しか見えなかつたわね」

マリオ「隠れて様子を見よう、ルリナ頼む」

ルリナ「OK」

マリオ達は気の影に入り、ルリナのカゲがくれで一緒に入った

影の中で誰かがスイッチを押すのを待つマリオ達

そして5分が経過した

ミルフィー「まだあーーー?」

ルリナ「静かに、誰か来たわ」

ドラゴン兵の1人が城に近づき、マリオ達には見えないブロックを叩いた

ブロックを叩くと入り口が開いた

城に入るとドアは再び閉ざされた

ルリナ「見たわね?」

マリオ達は影の中から出て見えないスイッチを叩いた

ガコン

ガガガガガガガガガガガ

ドアが開き、マリオ達は中に入った

モンババ城の中へ入つていくマリオ達

少し進むと不自然な壁があつた

ルリナ「怪しいわね、ミルフィーあの壁調べて」

ミルフィーは不思議な力を使い、壁を調べた

ミルフィー「あつた!隠し扉よーでも鍵が掛かってるわ」

隠し扉を発見したミルフィーだが、扉には鍵が掛かってた

マリオ「この城のどこにあるはずだ、探そう」

マリオ達は扉の鍵を探しにモンババ城内を探索した

扉の鍵を探すマリオ達、少し進むとドラゴン兵と遭遇した

ドラゴン兵A「城の者ではないようだが、どうせつて入ったんだ?」

マリオ「俺達、ここを探しているんだ」

ドラゴン兵B「それと同じ宝石なりつこ最近、モンババ様が見つけられた」

ドラゴン兵C「モンババ様はおでかけ中だが、間もなく帰られるだ
うわ」

ドラゴン兵A「モンババ様はこの城の一一番上だ、この鍵を持つてい
くがいい」

マリオ達に鍵を渡すドラゴン兵

ミルフィー「ありがとうございます。これで先へ進めるわ

マリオ達はドラゴン兵にお礼を言つと鍵の掛けた扉の所まで行った

鍵を使い、扉を開けるマリオ達

進むとドラゴクリボーと遭遇した

いきなり火を吐いて攻撃するドラゴクリボー

ミルフィー「あいつは敵よ」

ルリナ「カゲぬけパンチ！」

バアアアアン

カゲぬけパンチでドラゴクリボーを倒すルリナ

マリオ達は最上階にあるドリームジュエルを目指してモンババ城を進むのだった
第8話終わり

第9話 3つのスイッチで道を切り開け

最上階を目指し、モンババ城の中を進むマリオ達少し進むと今度は道が途切れていた

マリオ「それ！」

クルン

次元技を使うマリオ、右端に奥行の通路があった次元技を使いながら進んでいくマリオ達

通り過ぎると次元技を解除した

一方こちらは暗黒魔殿

パフェーラが退屈そうにしていた

そこへモンブラボが帰ってきた

パフェーラ「随分早かつたわね」

モンブラボ「申し訳ありません、メフィスト様、邪魔が入りまして

メフィスト「何者だ？」

モンブラボ「赤い帽子をかぶったヒゲの男と影のよつな女です」

マリオとルリナの事をメフィストに報告するモンブラボ

シフォリア「モンブラボはしばらく反省するみたい」「

モンブラボ「それより、タルトウートは?」

シフォリア「タルトウートならあなたが出かけたすぐ後に行きました」

その頃マリオ達はモンババ城を進んでた

ルリナ「ファイアウィップ!!!」

バシバシバシバシ――ン

ファイアウィップで4匹のドラゴクリボーを倒すルリナ

進むと階段があつたが、壁が邪魔していた

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

カゲがくれで下を通りとするマリオ達、しかし…

ガン

頭を打つてしまい、影から出るマリオ達

ルリナ「いったああ、普通の壁じゃないわね」

マリオ「あれを見ろ」

マリオが指を指した先にはスイッチが3つあった

ミルフィー「叩いてみて」

マリオ「えい！」

ルリナ「やあ！」

マリオ「とうー！」

試しに全部叩いたが、何の反応も無かった

マリオ「何も起きないな、ん？」

マリオは近くあつた看板を読んだ

マリオ「えーと……、3つのスイッチを同時に押せば道は開ける

ルリナ「スイッチを3つとも同時に押さないとダメね

マリオ「ミルフィー、協力してくれるか？」

ミルフィー「もちろんよー！」

マリオ達はスイッチの下についた

マリオ「いいか? 1、2の.....」

マリオ&ルリナ&ミルフィー「3!..」

3人同時にスイッチを叩くマリオ達

すると階段にあつた壁が引っ込んだ

マリオ達は最上階を目指して、階段を上つていいくのだった

第9話終わり

第10話 ついに遭遇！城主モンババ

最上階を田畠して進むマリオ達

一方こじらはモンババ城の最上階

モンババが帰還してきた

ドリームジュエルを懸しきものへ渡すまことせんじするモンババ達

モンババ「ああ、もしろいの宝石が懸しき者の中に渡れば世界は終わりを迎えるだろ？」

一方マリオ達は城の3階を進んでた
ドリームジュエルを懸しきものへ渡すまことせんじするモンババ達

ミルフィー「感じる、ドリームジュエルはすぐ近くにあるわ」

マリオ「じゃあ、もうすぐだな」

ドリームジュエルのある最上階を田畠すマリオ達

進んでいくと今度はスイッチが5つあった

ルリナ「今度は5つのスイッチか

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、するとスイッチに1～5の番号が書かれてた

マリオは次元技を解除し、スイッチを番号順に叩いた

すると扉が出現し、マリオ達は入った

扉から出ると最上階への螺旋階段が続いてた

螺旋階段を上つていくマリオ達

数分後、ついに最上階に到着した

ミルフィー「このドアの向こうでドリームジュエルがあるわ

ルリナ「行こ」

マリオ達は気を引き締め、部屋に入つてつた

入ると当然そこにはモンババがいた

モンババ「何じゃ？お主達は？」

マリオ「おれ達、ドリームジュエルを探してるんです」

モンババ「ドリームジュエル？この宝石の事か？」

ドリームジュエルをマリオ達に見せるモンババ

ルリナ「はい、やつです」

モンババ「何故お主達はドリームジュエルを欲する?」

ドリームジュエルを欲しがる理由を問い合わせるモンババ

ミルフィー「実は私のスイートランドが悪い奴らに襲われてメチャクチャになってしまって、元に戻したくてドリームジュエルを集めているんです」

マリオ「ドリームジュエルは全部で8つ、メフィスト達もそれを狙つてます」

ルリナ「全てのドリームジュエルがメフィストの手に渡つたらどうでもない事になるわ」

マリオ「この子の世界を平和するためにもお願ひします」

モンババ「ドリームジュエルを譲つてくれるよつお願いするマリオ

モンババ「お主にたくせう

モンババの言葉を聞き、喜ぶマコオ達

タルトウート「ンフフフフ」

ドリームジュエルを渡そうとした途端、タルトウートが現れた

ミルフィー「あなたは?」

タルトゥート「僕はメフィスト様のしもべタルトゥート、以後お見知りおきを」

ルリナ「メフィストの手下ですか？」

戦闘体勢に入るマリオとルリナ

タルトゥート「せっかくの冒険だし、簡単に手に入っちゃつまらないでしょ？僕がおもしろくしてあげるよ！」

マリオ「何をする気だ！？」

タルトゥート「ンフフフフ」

不気味な笑いを浮かべるタルトゥート、一体何をするつもりなのか？

第10話終わり

第11話 逆襲！狂竜モンババ

マリオ達の前に現れたメフィストの手下タルトウート

タルトウート「ンフフフフ、ハッ！」

モンババ「ウガアアアアア」

怪しげな術をモンババに使うタルトウート

ルリナ「何をしたの！？」

タルトウート「ンフフフ、がんばってね」

タルトウートは瞬間移動でどこかに消えた

マリオ「モンババ、大丈夫か？」

モンババの所へ駆け寄るマリオ

モンババ「何じゃ？ きさまらば？ こはきさまらのよつな輩が来る
といじやねえ！ とつとと失せやがれ！」

マリオ「うわああ！」

ルリナ「わあ！」

マリオ達に襲い掛かつて来るモンババ

それを見たドラゴン兵の一人が仲間に報告しに行つた

ドラゴン兵「大変だ！！モンババ様がご乱心だ！！！」

モンババ「グアアアア」

激しい火炎放射で攻撃するモンババ

ルリナ「魔法の炎！！！」

ドゴオオオオオン

魔法の炎でモンババの火炎放射を相殺させるルリナ

マリオ「何とかしてモンババを正気に」

モンババを正氣に戻そうと戦うマリオ達

しかし本気を出してしまえばモンババを殺してしまつかもしれない

モンババ「フン」

ブオオオオオ

尻尾を振り回して攻撃するモンババ

マリオ「それ」

ルリナ「カゲがくれ」

マリオは次元技を使い、ルリナはカゲがくれでモンババの攻撃をかわす

マリオ「ルリナ、おれを思いつきり上に投げてくれ」

ルリナ「わかつたわ」

ルリナはマリオを思いつきり上に放り投げた

マリオ「モンババ――――――正気に戻れや――――メテオパンチ」

ゴオオオオオオン

モンババ「ぐわああああ」

上空からメテオパンチをくらわすマリオ

モンババ「う……、これは? どういふ事だ?」

マリオのメテオパンチで正気に戻ったモンババ

モンババ「どうやらお主達に迷惑をかけてしまったようじゃ?」

ルリナ「いいんです、気にしないでください」

モンババ「このドリームジュエルをたくさん」

マリオ達にドリームジュエルを渡すモンババ

モンババ「必ず、世界を救うのだぞ!」

マリオ「絶対に救つてみせるーーー！」

世界を救うとモンババと約束するマリオ

一方こじらは暗黒魔殿

タルトウートが戻つて來た

モンブラボ「どこに行つてたのだ？」

タルトウート「ちよつとな」

シフォリア「他のドリームジュエルのうち一つの場所が分かりました」

モンブラボ「是非、このモンブラボに、今度こそ手に入れてみせます！」

今度こそドリームジュエルを手にいれよつと、やる気満々のモンブラボ

メフィスト「その場所なら既にパフェーラが向かつてゐる、あいつにはあの力も与えている」

その頃マリオ達はモンババ城の外にいた

ルリナ「これでドリームジュエルは二つ」

ミルフィー「喜ぶはまだ早いわ、ドリームジュエルはあと一つある

んだから

モンババ城でドリームジュエルを手に入れたマリオ達、しかし冒険はまだ始まつたばかり、残りのドリームジュエルはどこにあるのだろうか？

第11話終わり

第1-2話 ピーチ姫との約束

ドリームジュエルを手に入れ、モンババ城をあとにするマリオ達

ルリナ「これでドリームジュエルは2つ」

マリオ「残りは6つだな」

ミルフィー「じゃあ、次に一番近くドリームジュエルを場所を……」

マリオ「ちょっと待った」

ミルフィーが瞑想しようとした途端、マリオが止める

マリオ「キノコ城によつてもいいか?」

ミルフィー「いいけど?」

マリオ「ピーチ姫にもこの事を伝えないと

ルリナ「そうね、あたし達だけの問題じゃないもの」

マリオ達はキノコ城を目指して進んでった

一方こじらはキノコ城

ピーチ姫が花壇の手入れをしていた

ピーチ姫「いた」

トゲが刺さつてしまい、怪我をするピーチ姫

キノピオ「ピーチ姫！」

慌てて救急箱を持ってくるキノピオ

一方こちらはキノコワールドのある町

住人たちがドリームジュエルの話をしていた

住人A「何でも最近、洞窟に不思議な宝石があるって噂だぜ」

住人B「不思議な宝石か……、売つたら凄い価値があるだろつな

住人の話を聞いて、ニヤッと笑うパフェーラ

パフェーラ「ドリームジュエルは洞窟にあるのね、あいつらを利用
するか

町の住人に魔の手を伸ばすパフェーラ

その頃マリオ達はキノコ城を目指していた

数十分後、キノコ城に着いた

マリオ「着いたぞ、ここがキノコ城だ」

ミルフィー「きれいな城ね」

ルリナ「えーと、ピーチ姫は……いた！おーいピーチ姫——」

ピーチ姫に大声で叫ぶルリナ

ピーチ姫「マリオ！ルリナ！えーと、その子は？」

マリオ「ミルフィーだ」

ミルフィー「初めまして、ミルフィーです」

血口紹介をするミルフィー

ピーチ姫「よろしくね、私はピーチよ」

マリオ「実は今おれ達、ドリームジュエルを集めてるんだ？」

ピーチ姫「ドリームジュエル？」

ルリナ「これよ」

ドリームジュエルをピーチ姫に見せるルリナ

ピーチ姫「これどこかで見たことがあるわ

マリオ「本当か！？」で見たんだ」

ピーチ姫「ちよつと待つてて

必死に自分の記憶を検索するピーチ姫

数分後、ピーチ姫が何かを思い出した

ピーチ姫「これと同じ宝石がサリアシティの近くの洞窟にあるつて情報があつたわ」

マリオ「そのサリアシティにはどうやって行けばいいんだ?」

ピーチ姫「黄色い土管で地下を通れば行けるけど、何でドリームジユエルを集めるの」

マリオ達にドリームジュエルを集める理由を問うピーチ姫

ルリナ「ドリームジュエルには凄い力があつてね、8つ全部集めるけどんな願いでも叶えてくれるの」

ピーチ姫「どんな願いでも?」

マリオ「ああ、そのドリームジュエルを狙ってる悪い奴がメフイストだ」

ルリナ「あたし達、メフイストの手下とも会つたわ、その内の1人は直接戦わなかつたけど」

ピーチ姫「全てのドリームジュエルがメフイストの手に渡つたら恐ろしいことになるわ、マリオ! 絶対メフイストを倒すのよ」

マリオ「メフイストは必ず倒す

メフイストを倒すと、ピーチ姫と約束したマリオ達、次なるドリームジュエルはサリアシティの近くの洞窟にあるらしい、そこではど

んな冒険がマリオ達を待ってるのか？

第12話終わり

第13話 総統バッガルフ始動

メフィストを倒すと、約束したマリオ達はピーチ城をあとにした
3つ目のドリームジュエルを手に入れるため、サリアシティを目指して出発した

マリオ「まずは黄色い土管を探さないと」

ミルフィー「私に任せて、ん〜」

ミルフィーは静かに目を閉じ、ドリームジュエルの声を聞こうとする
ミルフィー「お願いドリームジュエル……黄色い土管はどうに行
けばあるの?」

数十秒後、ミルフィーが目を開いた

ミルフィー「ここから西の方角に黄色い土管があるわ

マリオ達は黄色い土管を指して西の方へ向かっていった

一方こちらはメガバッテンのアジト

軍団員數十人「1235、1236、1237」

腹筋や腕立て伏せをする數十人の軍団員

そこへペケダーが入つて來た

ペケダー「みんな、頑張つてあるな」

軍団員A「ペケダー様」

軍団員B「いつかバツガルフ様みたいに強くなつてみせます」

バツガルフのように強くなろうと努力する軍団員たち、そこへバツガルフが来た

バツガルフ「そうか、その時が来るのを楽しみに待つてあるぞ」

強い軍団員が生まれて来る日がいつか来ると喜ぶバツガルフ

バツガルフ「ペケダー、わしはしばらく旅に出る、留守を頼む」

軍団員「お出かけですか? バツガルフ様」

バツガルフ「ああ、とてつもなく嫌な予感がしているのでな」

バツガルフも世界に危機が迫つていてるのに気づいていた

ペケダー「お気を付けください」

敬礼で挨拶をするペケダー

バツガルフは転送装置で「ロシキタウンの地下に行き、土管で地上に出た

その頃マリオ達は黄色い土管田指して進んでた

マリオ「ほい」

ジャンプでノコノコの動きを止めるマリオ

ポコン

マリオはノコノコを投げて田の前の敵を蹴散らす

ミルフィー「す」「…す」「…」

マリオが敵を利用して一気に倒すを見て笑顔ではしゃぐミルフィー

敵を倒し、先に進むマリオ達

少し進むと黄色い土管を発見した

マリオ「あつたぞ、黄色い土管だ」

マリオ達は黄色い土管に入つていった

その頃サリアシティでは大変なことが起きていた

町の住人がパフューラに挑むがかなわない

パフューラ「アタクシに勝とうなんて、本当におバカね」

町の人たちの必死の抵抗をあざ笑うパフューラ

そしてマリオ達は土管で地下を進んでた

ルリナ「くせ……、早くサリアシティに繋がる土管を見つけましょ」

マリオ「そりだな……」

あまりの臭さに鼻をつまみながら進むマリオ達

地下を通つて、サリアシティに繋がる土管を用指すマリオ達、サリアシティにはメフィストの手下の一人パフェーラが待ち受けている

第13話終わり

第14話 廃墟の町サリアシティ

サリアシティを目指して地下を通りマリオ達

進むと道が肥でいっぱいだった

ルリナ&ミルフィー「マリオ先に行つて」

マリオ「冗談じゃねえ！靴がよけい腐つちまうだろ」「

ルリナ「レディにあんな臭い道の上を歩かせるつもりなの？」

バチバチ……

睨み合つて火花を散らすマリオとルリナ

ミルフィー「次元技を使ってみて」

クルン

ミルフィーに言われ、次元技を使つマリオ

しかし幅全体が肥でいっぱいだった

ルリナ「じゃあ、ジャンケンして負けた方が勝つた方をおぶついくのはどう？」「

マリオ「乗つた！」

マリオ&ルリナ「ジャンケンポンーー！」

ルリナ「やったー！」

マリオ「…………」

ジャンケンに負けてしまい、号泣しながらルリナを負ふつて肥の上を歩くマリオ

肥の上を通り過ぎると、ルリナを降ろした

マリオ「後でよく洗つておいつ」

地下を通りていくマリオ達

進むと今度はチカチョロプレーと遭遇した

穴を掘つて襲い掛かるチカチョロプレー

マリオ「そりゃああ

カキ—————ン

ハンマーでチカチョロプレーをホームランにするマリオ

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

少し進むと狭い道があり、下は肥溜めでいっぱいだ

落ちないように慎重に渡つていくマリオとルリナ

ミルフィーはそのまま飛んで渡つていく

ズルツ

マリオ&ルリナ「わあわあ

ドボオオオオオン

足を滑らせてしまい、肥溜めまみれになつてしまつマリオとルリナ

マリオ「トホホ……」

ルリナ「早くお風呂に入りたい……」

肥溜めまみれになりながらも進んでいくマリオ達

進むとサリアシティに繋がる土管を見つけた

ルリナ「やつたわー早くお風呂に入りたい」

大喜びで土管で地上に出来るマリオ達

しかし出土先は廃墟と化した街だった

マリオ「ここのサリアシティか……」

ルリナ「看板にもちゃんと書いてあるわ」

ミルフィー「一人でも生き残っている人を見つけてドリームジュエ

ルの情報を

マリオ達は生き残っている人を見つけようと必死に町中を探す
探しているうちに建物の陰からプリンのような顔をした女の子が出てきた

?????「何かお探しですか?」

ミルフィー「うん、あなたは?」

?????「私はパフィー、突然この町に悪い奴らが来て、私だけ助かったの」

ルリナ「悪い奴らって……」

マリオ「きっとメフィストたちの事だ」

パフィー「何か探してるなら私も協力するわ」

マリオ達に協力を要請するパフィー、彼女は敵か?それとも味方か?

第14話終わり

第15話 カヌーで進め

廃墟と化したサリアシティでマリオ達に協力を要請するパфиー

ルリナ「ドリームジュエルを探してるんだけど」

パфиー「ドリームジュエル?」

ルリナ「これよ

ドリームジュエルをパфиーに見せるルリナ

パфиー「これと同じ宝石が町のはずれの洞窟にあるって聞いたわ

マリオ「本当か!?」

パфиー「町の人からパスワードを教えてもらつてるから」

ミルフィー「この人も一緒に連れて行きましょ、もしかしたらそのパスワードが必要になるかも知れないし」

マリオ「そうだな」

マリオ達はパфиーと一緒に連れて行く事にした

パфиー「ありがとうございます」

マリオ達は洞窟を目指して出発した

少し進むと超巨大「ゴロン」が転がつて来た

マリオ「それ」

クルン

次元技で巨大ゴロンをかわし、やります」とマリオ達通り過ぎると次元技を解除し、さらに進んでいく

進んでいくと今度は水の流れる滝があった

マリオ「えーと……、おっ！ ちょうどいい木があつたぞ」

マリオとルリナは木を斬り、カヌーを作り始めた

数時間後、カヌーが完成し、マリオ達は乗り込んだ

木のかヌーで川を進んでいくマリオ達

パфиー「前方右に巨大な岩発見」

パфиーの支持を受け、左に避けるマリオ達

一方こちあらは海の真ん中

自家用の水上ジェット機にバツガルフが乗っていた

バツガルフ「キノコタウンの港はまだか」

水上ジェット機でキノコタウンの港を出指すバツガルフ

そしてこひらは暗黒魔殿

モンブラボ「どわああああ

タルトゥート「ンフフッフ」

モンブラボをからかうタルトゥート

メフィスト「何やつてんだ？お前ら」「

それを見て呆れかえるメフィスト

シフォリア「メフィスト様、私はちょっと出かけてきましたので失礼します」

どこかへ出かけにいくシフォリア

その頃マリオ達はカヌーで川を進んでた

進んでいくヒゲッソーパーが飛び出して来た

ルリナ「魔法の炎！！」

ボオオオオオオ

魔法の炎で數十匹のヒゲッソーパーを一掃するルリナ

カヌーで川を進んでいくマリオ達

進むと大きな滝が見えてきた

数十秒後、マリオ達はカヌーから降りた

「マリオ」ここからは歩きだな

カヌーから降り、洞窟を用指すマリオ達、次は何が待ち受けているのか？

第15話終わり

第16話 4色ブロックの謎を解け

カヌーから降り、洞窟を目指すマリオ達
進むと看板があつた

マリオは看板を読み始めた

マリオ「赤、赤、青、黄、赤、緑、黄、緑、青、赤、青、緑、緑、
緑、赤、黄」

ミルフィー「何かの暗号かしら?」

パфиー「それなら私がメモしておきました」

ルリナ「気がきくわね」

マリオ達はパфиーが書いたメモと、看板に書かれた文字を頭に入
れて進んだ

進むと今度はとつてつもなく高い壁があつた

マリオ「それ

クルン

次元技を使うマリオ、するとさつきまでの壁が階段になつた

次元技を使い、階段を上がるマリオ達

上がりきると次元技を解除した

洞窟を目指すマリオ達

進むと赤と青と黄と緑のブロックがあった

マリオ「4色のブロック……、そうだー、パфиー、あのメモを

パфиー「はー」

マリオに順番が書かれたメモを渡すパфиー

ポコーンポコーンポコーン

メモに書かれた通りにブロックを叩くマリオ

ЃЃЃЃЃЃЃЃЃЃЃЃ

叩き終わると地響きがなり、土管が出現した

土管に入り、地下に潜るマリオ達

地下に入るといきなりロボテトラーが襲ってきた

サツ ガン

ロボテトラーの攻撃をかわすマリオ達

マリオ「さすがロボ、玉まで鉄だぜ」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

ズガアーン

カゲぬけパンチでロボテトラーを破壊するルリナ

ロボテトラーを破壊し、先を進むマリオ達

進むと紙が貼られていた

紙には野菜とお肉、と書かれていた

ミルフィー「何かしら？野菜とお肉って？」

パфиー「何かの暗号かしら？」

マリオ達は紙に書かれた言葉を頭に入れて中に進む

進むと下に僅かな隙間があいた壁を発見

ルリナ「カゲがくれ」

シユウウウン

影の中に入つて僅かな隙間の下を通るマリオ達

通りすぎると影から出て、さらに先を進む

進むと今度は10個のブロックがあった

しかもブロックには0～9の数字が書かれていた

数字の書かれた10個のブロック、果たしてこれは何を意味するのか？

第16話終わり

第17話 ワンワン決死の覚悟

ドリームジュエルを手に入れるため、洞窟を攻略するマリオ達彼らの目の前には10個のブロックと大きな谷間があった

マリオ「野菜とお肉……」

紙に書かれていた言葉を思い出すマリオ

ミルフィー「野菜とお肉ね……」

パスワードを考えるマリオ達

数十秒後、ルリナが閃いた

ルリナ「わかったわ！ 83110029」と

ビコンビコンビコン……

83110029とブロックを叩くマリオ

すると巨大な橋が出現した

パフィー「どうしてわかったの？」

ルリナ「野菜は831、とは10、でもってお肉は029、だから
83110029」

ミルフィー「偉いのねルリナって

パфиー「行きましょ」

橋を渡つていくマコオ達

渡つていぐ途中で鎖に繋がれているワンワンを見つけて

ワンワン「ワンワン

ズバ

ルリナは人差し指から鋭い刃のような炎をだし、鎖を焼き切る

ワンワン「ワンワン

笑顔でルリナの頭にかみつくワンワン

ルリナ「ちゅうと痛いじゃない」

マリオ「まあ……あればワンワンの愛情表現かな?」

パфиー「このワンワンをどこか安全な場所へ

ルリナ「ここにこちや危ないから隠れるのよ」

そう言つとルリナはワンワンを手放した

ワンワン「クウ——ン……」

去ってこくマリオ達の後ろ姿を泣いて見送るワンワン

進んでいくとつこ洞窟に辿り着いたマリオたち

しかし洞窟の入り口は瓦礫で埋まっていた

パфиー「あの中はどうだ？」

ルリナ「あそこに何か書かれているわ」

マリオは近くにあつた看板を読んだ

マリオ「黒き…………、黒きつて何だ？」

しかし看板はあまりにも汚れており、黒きしか読めなかつた

ミルフィー「黒きつて事は、黒い何かつて事ね

洞窟に入る方法を考えるマリオ達

考える最中、さつきのワンワンが追ってきた

マリオ「お前はさつきの」

ワンワン「ワンワン……！」

ドガアアアアアアン

渾身の体当たりで瓦礫を粉々にするワンワン

ミルフィー「黒をつけてのはワンワンの事だったのね」

ルリナ「よくやったわ」

ワンワンの頭を優しくなでるルリナ

マリオ「ドリー・ムジュ・ムジュ・ムルはこの中だ、こべが」

マリオたちはドリー・ムジュ・ムジュ・ムルのある場所を田舎して洞窟に入つて
いった

パфиー「ウフフ……」

しかしマリオ達の背後ではパфиーが邪悪な笑みを浮かべてこるので
だった

第17話終わり

第18話 赤と青の運命のスイッチ

ドリームジュエルのある場所を田舎して洞窟に入つていくマリオ達
入るといきなり行き止まりだった

パфиー「行き止まりじゃない?」

マリオ「心配ない、それ」

クルン

次元技を使い、隙間を通していくマリオ達

通り過ぎると次元技を解除する

進んでいくと今度は15匹のバサバサが襲ってきた

ルリナ「ファイア・ウイップ! ! !」

マリオ「ガトリングフュイ! ! !」

必殺技で15匹のバサバサを一掃するマリオとルリナ

バサバサを撃退し、先に進むマリオ達

一方こちちはメガバッテンのアジト

バッガルフが留守中の間、ペケダーが指揮をとっていた

ペケダ一「A班はB班と交代、C班は引き続き警備を」

軍団員達は班別に行動していくらし

軍団員「あの、ペケダ一様」

ペケダ一「なんだ?」

軍団員「うわさなんですが、空にいくつもの島が浮いてるって聞いた事があるんですが」

ペケダ一「そんなもんあるわけないだろ、空に浮いてるのはアーヴィング島とウーロン街ぐらいだよ」

その頃バツガルフはキノコタウンにいた

バツガルフ「えーと、キノコ城は」

キノコ城を目指すバツガルフ

そしてマリオ達は洞窟の中を進んでた

進むと赤と青のスイッチがあつた

パフィー「どっちを叩けばいい?」

ルリナ「とりあえず赤」

赤のスイッチを叩くマリオ達

パカ

「わああああああ
マリオ&ルリナ&ミルフィー&パフィー」
落とし穴が開き、入り口まで戻されるマリオ達
マリオ「いて、入り口まで戻つてしまつたぞ」

ルリナ「今度は青の方を叩きましょ」

マリオ達は敵を倒しながらスイッチの所まで走つていく

スイッチの所までつくと、当然今度は青のスイッチを叩く

パカン

再び落とし穴が開き、入り口まで戻されるマリオ達

ルリナ「もうー！」

2度も入り口まで戻され、イラつくルリナ

ミルフィー「どうなつてゐるのかしら?」

マリオ「もう一回行つて調べよう」

マリオ達は再びスイッチのある場所を田指していく
数分後、スイッチのある場所に辿り着いたマリオ達

マリオ達は近くに何かないか調べた

マリオ「それ

クルン

次元技を使い、辺りを調べるマリオ

すると彼の前方に看板が1枚あった

マリオ「えーと、2つのスイッチのうち、1つは前に、1つは戻される、どちらが正しいかは運次第」

マリオ「わかつたぞ! このスイッチは前に行ける方のスイッチがランダムに変わるんだ」

ミルフィー「じゃあ、さっきのは2回ともハズレだったのね」

ルリナ「マリオ、今度は絶対当てるね」

マリオ「わかつてゐ、どっちだ? 赤か? それとも青か?」

どっちが正解のスイッチか、真剣に考えるマリオ、果たして当てる
ことはできるのか?

第18話終わり

第19話 洞窟パニック

ドリームジユホールのある場所を田指し、洞窟を進むマリオ達

2つのスイッチに道を阻まれ、どっちが正解か真剣に考えるマリオ

マリオ「ええい！青だ！！」

やけになつて青のスイッチを叩くマリオ

地響きが鳴り、先への通路が開く

ハブイー センターウ

川リナ　これで先に進めるわね

通路が開き、先を進む。才達

進むと巨大的な滝がある

ハーナ・カケカズレ

三一堂

影の中に入つて滝の中を通るマリオ達

通り過ぎるとマコオ達は影の中から出た

進んでいくと行き止まりだった

マリオ「それ

クルン

マリオは次元技を使つたが、抜け道はなさそうだ

マリオ「抜け道なしが、ミルフィー」

ミルフィー「ん～～」

ピカアアアア

不思議な力で見えないドアを出現させるミルフィー

ミルフィーが出したドアに入つていくマリオ達

ドアから出て先を進むマリオ達

進んでいくと突然ルリナの背後に大きな舌が現れて彼女の背中をなめる

ルリナ「！－！－！何すんのよ！－！」

ガン

マリオ「いてええええ」

顔が赤くなり、マリオの頭を殴るルリナ

ルリナ「今あたしの背中なめたでしょ」

もめるマリオとルリナ

ミルフィーは不思議な力を使い、ルリナの背中をなめた敵を探す

ミルフィー「ん～、いたわ！ルリナ、あそこに魔法の炎を

ルリナ「わかったわ、魔法の炎！！」

ミルフィーが指を指した方向に魔法の炎で攻撃するルリナ

ベロベーロ「ギャアアアア」

炎に焼かれたベロベーロがそのまま落下していく

マリオ「こいつは？」

ミルフィー「えーと、ベロベーロね」

ルリナ「さつきあたしの背中をなめたのはこいつだったのね

パфиー「これあげるわ」

ベロベーロの舌に瓶1本分の辛さ10倍ハバネロをかけるパфиー

ベロベーロ「……」

あまりの辛さにもがれ堪こんで逃げたベロベーロ

パフィー「hardtierの途中をなめるといつなるのよ、覚えておかな
れー」

ベロベーロを退け、先を進むマリオ達

ミルフィー「感じじる、ドームジュエルは近いわ」

マリオ「もう少しだな」

洞窟の中を進んでいくマリオ達、目的のドームジュエルはもうす
ぐだ

第19話終わり

第20話 ドリームジュエルゲットーそして

ドリームジュエルを手に入れるため、洞窟を進むマリオ達

ルリナ「魔法の炎」

ゴオオオオオオ

バサバサ數十匹「ギイイイイイイ」

數十匹のバサバサを倒し、先を進むマリオ達

進んでいくと鍵のかかったドアの一本の土管があった

マリオ「鍵はある土管の中だな」

鍵を探しに土管の中に入つていくマリオ達

中は思った以上に複雑だった

ミルフィー「複雑な迷路ね」

マリオ達は手当り次第、探していく

マリオはみんなにマジックを渡した

マリオ「いいか、鍵を見つけた奴がマジックで土管に印をつけるんだ

ルリナ＆ミルフィー＆パフィー「うん」

マリオ達は手分けして鍵を探していく

ミルフィーのところにはバサバサが襲つてくる

ミルフィー「キャアアアアア」

自分の力ではかなうことができず、逃げるミルフィー

ルリナは次々と土管に入つて、手当り次第探していく

土管から出ると、マリオと遭遇した

ルリナ「マリオ、そつちは？」

マリオ「まだ見つからない」

再び別れて探すマリオ達

パフィー「しつこいわね」

襲つてくるバサバサを振り払うパフィー

マリオ「ん、あつた！」

ついに鍵を見つけたマリオ

マリオは土管に入る前にマジックで印をつけていく

土管の中を探すルリナ

探していいくと、マリオが印をつけた土管を見つける

ルリナ「マリオが見つけたのね」

ルリナもすぐにマリオの後を追う

それに続き、パфиーとミルフィーも追っていく

出るとそこにはマリオが鍵を持って待っていた

ミルフィー「マリオ」

マリオ「ああ

マリオは鍵を使い、ドアを開ける

出るとそこにはドリームジュエルがあった

ミルフィー「あつたわ！ドリームジュエルよ

ハツ

パфиー「これはもうったわ

田の前にあるドリームジュエルを奪っていくパфиー

ルリナ「パфиー、それを返しなさい」

パфиーにドリームジュエルを返せと懇求するルリナ

マリオ「パфиー！お前は何者なんだ？」

パфиー「教えてあげる、パфиーとは仮の名、ワタクシの正体はメフィスト様に仕えし部下、パフェーラ！！」

ミルфиー「あなた、メフィストの手下だったのね」

自ら正体を名乗ったパフェーラ、マリオ達はドリームジュエルを奪い返せるのか？

第20話終わり

第21話 パフェーラ大変身！マリオ絶対絶命

自ら正体を名乗り、ドリームジュエルを強奪するパフェーラ
ルリナ「ドリームジュエルを返しなさい！…」

パフェーラ「嫌よ、これはメフィスト様のためにあるもの」

そう言つとパフェーラは走つて逃げていった

ミルフィー「マリオ、追つのよ」

マリオ「分かつてゐる」

当然マリオ達もパフェーラを走つて追いかける

パフェーラ「えやーーー」

クリームで攻撃するパフェーラ

マリオ「それ」

クルン

次元技を使い、攻撃を避けるマリオ達

ドリームジュエルをめぐつて追いかけるマリオ達とパフェーラ

数分がすぎ、パフェーラを行き止まりに追い詰めた

ルリナ「もう逃げられないわよ」

パフェーラ「私の本当の力を見せてあげるわ、パーエパフェー
ーーーー！」

何と！パフェーラは両手を左右に広げた

マリオ「何をする気だ？」

クルルルルルル……

顔と両手を凄い勢いで回転させていくパフェーラ

シャキキン

ソフトクリームのようなモンスターに変身したパフェーラ

ミルフィー「なんなのー？」

マリオ「あいつもマネーラやマリーるみたいに変身できるみたいだ
な」

パフェーラの変身に驚くミルフィー

しかしマリオは過去にこういつ変身は何度も見てるので平然とし
ていた

ルリナ「来るわ」

パフューラ「キ———」

キララ……

小さな無数の氷の刃を飛ばして攻撃してくるパフューラ

ルリナ「魔法の炎！！」

ジユワアアア

魔法の炎で氷の刃を全て蒸発させるルリナ

マリオ「回転ハンマー——！——！」

ドゴオオオオ

回転ハンマーでパフューラを攻撃するマリオ

ミルフィー「やった！——！」

攻撃がヒットし、喜ぶミルフィー、だがパフューラは平然としていた

パフューラ「何のつもりかしら？」「

ミルフィー「攻撃が効いてない……」

ルリナ「だったら、魔法の炎！！」

今度はルリナが魔法の炎で攻撃を仕掛ける

炎に包まれていくパフェーラ

炎の中からパフェーラが出てきた

マリオ「だつたら同時攻撃だ！！はあああ

マリオはエターナルスター・パワーを発動し、ルリナも大技を繋つ体勢に入る

マリオ「エターナルスター・ブレッド！！！」

ルリナ「デス・エンド・フレイム！！！」

ドオオオオオオオン

マリオとルリナの同時攻撃がパフェーラにクリーンヒット！！！

パフェーラ「ウフフフフフ」

同時攻撃もくらっても平然とするパフェーラ

マリオ「俺とルリナの攻撃も効かないのか」

パフェーラ「私にこの力がある限り、あんた達に勝ち目はないわ」

再びマリオ達を攻撃するパフェーラ

マリオ「まづい、一旦逃げよう」

どんな攻撃も効かないパフェーラから逃げるマリオ達、果たして倒

す術はあるのだろうか?
第21話終わり

第22話 SOS!スイフからのトーレパシー

パフェーラに戦いを挑んだマリオ達だが、どんな攻撃も通用しない

マリオ「逃げるぞ」

どんな攻撃も効かないパフェーラから逃げ出すマリオ達

パフェーラ「逃がさないわ」

当然パフェーラはマリオ達を仕留めるべく攻撃をする

ルリナ「カゲがくれ

シユウウウウン

影の中に入つてパフェーラの攻撃を避けるルリナ

ルリナはマリオとミルフィーも一緒に影の中に入れた

影の中に入りながら逃げるマリオ達

一方こちらは暗黒魔殿

モンブラボがメフィストの前に立つていた

モンブラボ「メフィスト様、本当にパフェーラなんかに任せられますか?」

メフィスト「心配いらん、パフェーラには私が無敵の力を与えている」

シフォリア「その力がある限り、パフェーラにはどんな攻撃も効かないのです」

タルトウート「だーから 心配する」とないよモンブランボくん
その頃マリオ達はサリアシティに身を隠していた

パフェーラ「どこに行つた?」

元の姿に戻り、マリオ達を探すパフェーラ

ミルフィー「このままじゃ私達に勝ち目はないわ」

ルリナ「まず、あの力を打ち消さないと」

マリオ「でも一体どうやって?」

パフェーラの無敵の力を打ち消す方法を考えるマリオ達

その最中、誰かからか、テレパシーでマリオ達に話した

???（おお、わしの話を聞いてくれる人が現れた）

マリオ「誰ですか？」

???（わしは高名な術師スイフじや）

スイフ（わしの力があればあやつの力を打ち消す事ができる）

スイフの力があればパフェーラの無敵の力を打ち消す事ができるるい
しい

ルリナ「スイフさん…どうにいるんですか？」

スイフに居場所を教えてもらいうるリナ

スイフ（サリアシティとドリームジュエルのあつた洞窟の間に家がある、その家はわしの特殊な力で見えなくしておるんじや）

サリアシティとドリームジュエルのあつた洞窟の間に家があり、ス
イフはそこによりうらじい

マリオ「まずはその家を探そづ」

パフェーラ「見つけたわ！」

スイフの家を探しに行こうとしたマリオ達だが、パフェーラに見つ
かってしまう

再び変身し、攻撃をするパフェーラ

マリオ「むん！」

カキキキ

パフェーラの攻撃を弾き返すマリオ

マリオ「パフェーラは俺が食い止める、ルリナとミルフィーはスイフを見つけてくれ」

ルリナ「わかつたわ」

マリオがパフェーラの相手をし、ルリナとミルフィーはスイフの家を探しに行つた

パフェーラ「まずはあなたから始末するわ」

クリームを飛ばして攻撃するパフェーラ

マリオ「とう！」

クルン スカツ

次元技を使い、パフェーラの攻撃を避けるマリオ

クルン

マリオ「はあああああ」

次元技を解除し、パフェーラに攻撃を仕掛ける

ドゴオオオオオン

攻撃が当たつたが、パフェーラは全然平氣だった

パフェーラ「私に無敵の力がある限り、あなたの負けは確実よ」

自分に無敵の力がある限り、マリオに勝つことは無いと言つパフューラ

そしてルリナとミルフィーはスイフの家を見つける事ができるのか
！？

第22話終わり

第23話 打ち破れ！パフェーラの無敵の力

スイフを助けるべく、見えない家を探すルリナとミルフィー
ミルフィーは不思議な力を使い、辺りをくまなく調べる

ルリナ「どう？」

ミルフィー「だめ、この辺りには無いわ」

ルリナ「じゃあ、もう少し先に」

ミルフィーの力を使いながらスイフの家を探すルリナ

その頃マリオはパフェーラと戦つてた

マリオ「ファイアボール乱れ撃ち！！メテオハンマー！！スーパー
ジャンプ！！！」

ボボボボボボ ドゴオオオオン ドガツ

いろんな技で攻撃をするマリオ

パフェーラ「いくらやつても無駄よ」

しかしパフェーラは無敵の力でノーダメージだ

数分の攻防が続き、マリオに疲れが見え始めた

マリオ「いひなつたら、はああああ

少しでも時間を稼ごうと、エターナルスターパワーを発動させるマリオ

パフェーラ「そんな事しても無駄よ」

エターナルスターのマリオに余裕の表情を見せるパフェーラ

そしてルリナとミルフィーはスイフの家を探してた

パアアアア

ミルフィー「見つけたわ！！」

不思議な力を使い、スイフの家を出現させたミルフィー

力を何度も使ったミルフィーはそのまま気を失う

ルリナ「よくやったわ」

ルリナはミルフィーを抱きかかえながらスイフの家に入っていく

家に入ると突然犬が吠えだした

犬「ワンワン！！」

ルリナ「あたし達は敵じゃないわ」

必死に犬を説得するルリナ

そこへ一人の老人が来た

スイフ「こら、マグルスやめなさい」

マグルス「ガルル……」

スイフに言われ、ルリナを威嚇するのをやめるマグルス

スイフ「わしがスイフじゃ」

ルリナ「パフューラのあの力を打ち消してください」

スイフ「では急いで向かおう」

スイフはルリナと一緒にパフェーラのもとを田舎していった

その頃マリオはパフューラと戦つてた

マリオ「エターナルスター流星群！……」

ビビビビビビビビ

パフェーラ「アハハハハ」

エターナルスター流星群をあびながら大笑いするパフェーラ

パフェーラ「今度はこっちの番よ」

ドンドンドンドンドン

猛烈な勢いで攻撃をするパフェーラ

ついに「マリオのエターナルスター」が解けてしまつ

戦っているうちに、ルリナがスイフを連れて到着した

ルリナ「そこまでよ！スイフさん」

スイフ「アロラムレーシャーコントレスピーリー・ハアアアア
ア！！！」

怪しげな術をパフェーラに向かって放つスイフ

パフェーラ「……？、なんのつもりかしり？」

ルリナ「マリオ、一気にやつつけりゃこまじょ
「

マリオ「えりやつ」

ジャンプで攻撃をするマリオ

ボカ

パフェーラ「いたああ」

今までどんな攻撃も平氣だつたのに、普通のジャンプ攻撃でダメージを受けるパフェーラ

パフェーラ「なんで？私にはメフィスト様から無敵の力をもらつて

いるのに

ルリナ「その無敵の力はもう消えてるのよ、スイフさんの力でね」
スイフの力でパフェーラの無敵の力を打ち消す事に成功したマリオ
達、いよいよ反撃開始だ

第23話終わり

第24話 パフェーラ撃退！必殺のダブルパンチ

スイフの力によつてパフェーラの無敵の力を打ち消す事に成功した
マリオ達

ルリナ「覚悟はいいわね？パフェーラ」

パフェーラ「ふん！あんた達なんか無敵の力が無くても十分よ」

無敵の力が失われたが、パフェーラは強気になつて襲い掛かる

パフェーラ「これでもくらいなさい」

クリームを飛ばして攻撃するパフェーラ

マリオ「よつ」

ルリナ「カゲがくれ」

クルン シュウウウン

次元技や影の中に入つて攻撃をかわすマリオとルリナ

マリオ「今度はこっちから行くぞ、ガツーンパンチ！－！」

ルリナ「カゲぬけパンチ！－！」

バコオオオオオン

パフューラ「ああああああああ」

ダブルパンチでダメージを受けるパフェーラ

パフェーラ「ええい！」

パフェーラは今度は小さな無数の氷の粒を飛ばして攻撃して来た

ルリナ「ファイア流星群！－！」

エホホホホホホ

ルリナはファイア流星群でパフォーラの攻撃を打ち消して、直撃させる

マリオ達の攻撃を次々とくらいい、パフェーラはついに倒れる

パフェーラ「そんな……」のワタクシが……ありえないわ」

数秒後、パフエーラは元の姿に戻る

パフューム「くやしいけど、ここは引き下がつた方が良さそうね。」
覚悟しておきなさい、次はいつまいかないんだから！」

パフェー ラは泣きながらその場を去つて行つた

スイフ「うむ、見事であった」

マリオ「パフェーラはバツチリ追い払つたぞ」

「マリオ達の勝利を褒めるスイフ

スイフはサリアシティに何が起きたのか話し始めた

スイフ「お前さん達が来る少し前にあいつが来たんじゃ」

パフェーラはマリオ達が来る前にサリアシティに来ていたらしく

スイフ「あの女は町を次々と破壊して住人まで傷つけおつた」

ミルフィー「多分ドリームジュエルの情報を聞いて、強引に聞き出そうとしていたのね」

スイフ「そこでわしは町を離れ、この家に住んだんじや。早く行つて皆を直してやらねば」

マリオ「スイフさん、俺たちもあいつの仲間と戦つたことがあるんですね」

モンブラボと戦つた事をスイフに教えるマリオ

ルリナ「それと、もう一人いたけど、そいつとはまだ戦つてないわ」

パフェーラやモンブラボとは一度戦つたが、タルトウートとはまだ戦つてない

スイフ「その宝石はお前さん達のものじゃ、遠慮なくもらつておくれ

ミルフィー「じゃあ、遠慮なく頂いちゃいましょう」

ルリナ「うん」

スイフからドリームジュエルを貰つたマリオ達
パフェーラの策略も跳ね除け、3つ目のドリームジュエルを手に入
れた

次のドリームジュエルがある場所にはどんな冒険や敵が待つて
いるのか？

第24話終わり

第25話 スイフの家で一休み

「ここは暗黒魔殿

シフォリアがメフィストに報告していた

シフォリア「メフィスト様、パフェーラから報告がありました。油断しちゃった、ゆるしてちょーだいだそうです」

メフィスト「私が無敵の力を『えても止められぬとは、マリオよ、実際に愉快である』

パフェーラを撃退されたのに、余裕の笑みを浮かべるメフィスト

モンブラボ「メフィスト様！次はこのモンブラボに、今度こそ始末してきます」

メフィスト「お前はもうしばらく休むがいい、代わりのものに行かせよ。タルトウート！」

メフィストに呼ばれてタルトウートが田の前に現れた

タルトウート「お呼びですか？メフィスト様」

メフィスト「お前もそろそろ遊びたい頃だろ」

タルトウート「そうね、あいつらは前に竜で遊ばせてやつたし、今度はボクが直々に遊んでやるか」

「マリオ達を始末してくるのだ」

タルトウート「ウイ～～」

パシユン

メフィストに命じられ、タルトゥートは瞬間移動で行つた

その頃マリオ達はスイフの家にいた

マリオ - それじゃ、次のエラーメッシュルを……

ドリームジュエルを探しに行こうとした途端、心臓を貫くような殺気が直撃する

ミルフィー「ル……ルリナさん？」

ルリナ「その前にお風呂よ」

ルリナは地下で肥に落ちてしまったので、その臭いを落とすのを優先している

「……………マリオ「そ……………そうだな…………、まずこの臭いのを落とさないと……………」

ドリームジユエルを探しに行きたいが、逆にうつ殺されそうなのでマリオも風呂に優先する

スイフ「風呂ならあそびじや」

ルリナ「じゃあアタシヒミルフイーから先に入るわ、覗いたら殺すわよ」

「マリオ「お前の裸体なんか擬人化でも見る価値ねえのに……」

小声で小さくブツブツ言つマリオ

ルリナ「何か言つた?」

凄い殺氣とともに右手から炎を出すルリナ

マリオ「いえ!なんでもありますん」

ルリナヒミルフイーはそのまま脱衣所へ入つていく

手袋や帽子を脱ぐルリナ

脱衣所の外ではマリオがスイフと話してた

スイフ「マリオどのは色んな悪党と戦つてきたのか

マリオ「ああ、あのルリナも最初は俺たちの敵だつたんだ、その時はとんでもねく強かつたさ、今では心強い味方だよ」

浴場ではルリナがヒミルフイーを洗つてた

ルリナ「ヒミルフイー、じつとしてなむこ」

ミルフイー「あはははは」

ミルフィーの体を洗おうとするルリナだが、動き回れて集中できない

数十分後、ルリナとミルフィーが出てきた

ルリナ「スッキリしたわ」

マリオ「次は俺の番だ」

スイフ「ではわしが洗濯しておいておこう」

ルリナ「これもお願いします」

スイフに帽子と手袋を渡すルリナ

マリオ達の衣類を洗濯し始めるスイフ

そしてマリオは浴場で臭いを落としていた

グオングオングオングオン……

衣類を洗濯機に入れて洗うスイフ

スイフの家で一休みするマリオ達、次は4つ目のドーム・ミュエル
を目指して出発だ

第25話終わり

第26話 北の大地を目指して

スイフの家で一休みするマリオ達

一方別の場所ではタルトウートが待っていた

タルトウート「早くこないかな？ボクが直々に遊んであげるの！」

そして「」ちらは暗黒魔殿

パフェーラが不機嫌そうな顔して戻つて来た

パフェーラ「しぐじつたわ、ドリームジュエルを奪い返されるなんて」

モンブラボ「そう落ち込むな、散つているドリームジュエルはまだ5個あるんだ」

パフェーラを励ますとモンブラボ

数十秒後、パフェーラはどこかへ歩いていく

モンブラボ「パフェーラへどこへ行くんだ」

パフェーラ「お風呂かー」

そして次の日になり、マリオ達は出発の準備をしていた

マリオ「ミルフィー」

ミルフィー「ドリームジューエル答えて……あなたの仲間を居場所を」

ミルフィーはドリームジューエルに心を合わせる

数十秒後、ミルフィーが両目を開いた

ミルフィー「次のドリームジューエルは最北の大地にあるわ」

ルリナ「サイハテ地方ね」

マリオ「あそこは寒いからな、炎系の技が使える奴は重宝だよ」

ルリナ「えい」

ボオオオオオ

指先から炎をだし、マリオ達を温めるルリナ

マリオ「助かった、ところでどうやって行くんだ?」

ミルフィー「地下を通つていけばつくわ」

ルリナ「土管のところまで戻りましょ」

マリオ達は土管を目指して進んでいった

一方こちらは地道道

バツガルフが敵を倒しながら進んでた

バツガルフ「ここはジメジメしてて臭いな」

地道を進んでいくバツガルフ、進んでいくとだんだん寒くなってきた

バツガルフ「なんか急に寒くなつたよつな?」

そしてマリオ達は土管を田指して進んでた

ルリナ「ファイア・ウェップ! ! !」

バシィィィィ

ファイア・ウェップで敵を倒すルリナ

そして今度は5匹のクリボーと4匹のギターが現れた

マリオ「ほら、エサだぞ」

ドカアアアアン

エサだと言しながら、ギターの口に爆弾を入れまくるマリオ

大量の爆弾を食つたギターは跡形もなく吹っ飛ぶ

一方こちらはマリオの家

ルイージが留守番をしていた

ルイージ「兄さん今頃どうしてるかなあ……」

兄の心配をしながら留守番するルイージ

クッパ城でもクッパが退屈そうにしていた

クッパ「最近、マリオの顔を見ないな」

クッパはこじまじくマリオとは会っていない

クッパ「星がだめなら宝石にでも願いを叶えてほしいくらいだ

クッパはまだドリームジュエルの存在を知らないらしい

そしてマリオ達は土管を田指して進むのだった
第26話終わり

第27話 ユキリン村のバツガルフ

来たの大地を目指して進むマリオ達

少し進むと土管を見つけた

土管の中に入つていくマリオ達

マリオ「北の大地は寒いから、そこに通じてる土管は凍つてゐるはずだ」

ルリナ「なるほど」

ミルフィー「その凍つてゐる土管を探しましょ」

マリオ達は凍つてゐる土管を探し始めた

一方地下道の別の場所ではバツガルフが歩いていた

バツガルフ「うへへ、寒い……」

体をガタガタ震わせながら進むバツガルフ

進んでいくと凍りついた土管を見つける

バツガルフは土管に入つていく

出るとそこは一面雪と氷の村だった

村人「誰じゃ？お前さんは？」

バツガルフに声をかける村人

バツガルフ「ああ、私はバツガルフという者だ」

村人「家に入つて温かいお茶でも飲みなさい」

バツガルフを家の中に入れる村人

バツガルフ「ありがとう、とこりでここは？」

村人「ここはユキリン村」

ユキリン村は1年中雪が降る村らしい

そして、ユキリン村から離れた所ではタルトウートが暇つぶしをしていた

タルトウート「ハイ」

ポン パアアアア

怪しげな術を花火のように破裂させるタルトウート

タルトウート「暇だな……」

そしてマリオ達は地下を進んでた

マリオ「う……」

ミルフィー「寒い……」

ルリナ「魔法の炎」

ボオオオオ

魔法の炎で温まるマリオ達

ミルフィー「助かった」

マリオ「助かったよルリナ」

ルリナ「このまま一氣に行きましょう」

マリオ達は凍り潰けの土管を田指して一氣に走り出した

数分後、マリオ達は凍りづいた土管を見つけた

ミルフィー「あつたわ！」

マリオ「まずはドリームジュエルの情報を得よう」

ルリナ「それと何か食べないと

マリオ達は土管を潜り、コキリン村についたのだった
第27話終わり

第28話 新たな仲間！機械總統バッガルフ

土管を潜り、コキリン村に着いたマリオ達

出でといきなり村の女の子と遭遇する

女の子「あなただあれ？」

マリオ「俺はマリオ」

ルリナ「あたしはルリナ、でもつてこちがミルフィー」

女の子「初めましてコキミです」

マリオ「コキミちゃん、ドリームジュエルって知ってるか？」

コキミ「ドリームジュエル？」

ミルフィー「これがドリームジュエルよ」

コキミ「ドリームジュエルを見せるミルフィー

コキミ「うめんなさい、でもおじこちゃんなら知ってるかも、おじ
いちゃんは村長なんだから」

コキミは村長の孫らしい

ルリナ「まぢは村長から話を聞く」

数分後、マリオ達はユキミの跡について行った

村長の家に着いたマリオ達

そこには村長とバツガルフがいた

バツガルフ「ん？ マリオくんではないか！ 久しぶりだな

ルリナ「アジトの方はどうなってるの？」

バツガルフ「ペケダー達に留守を任せている、妙な胸騒ぎがするんだ」

マリオ「妙な胸騒ぎ？」

バツガルフ「このまま放つておけばかつて私がした事以上に大変な事になるかもしだん！」

バツガルフもメフィスト達が悪い事をしている事に感づいてた

ルリナ「メフィスト達の仕業ね」

バツガルフ「メフィスト？ 誰なんだ？」

マリオ達はメフィスト達の事について詳しく話した

マリオ「俺たちは今までメフィストの3人の手下のうち2人と戦つてる」

ルリナ「一人は怪力自慢の男で、もう一人の女はマネーラやマリー

ルみたいに変身できる能力を持つていたわ」

モンブラボやパフェーラの事を話すルリナ

マリオ「まだ戦つてない奴は妙な術を使うんだ」

マリオもタルトウートについて語っていた

バッガルフ「それで、メフィストと会った事は？」

ミルフィー「私だけ……、スイートランドを襲われた時に一度

ミルフィーはメフィストとシフォリアに会った事があるが、マリオ達はまだ無い

話をしているうちに村長がスープを持ってきた

村長「大変だつたろ、これでも飲んで行きなさい」

ルリナ「ありがとうございます」

スープを遠慮なくいただくマリオ達

その後マリオ達はスープを飲みながら話を続ける

マリオ「ドリームジュエルって、知っていますか？これなんです」

村長にドリームジュエルを見せるマリオ

村長「そういうえばフリー・ズパレスにキラキラ光るもののが落ちてきた

な

ミルフィー「もしかしたらそれがドリームジュエルかも」

バツガルフ「私も同行しよう! そしてメフィストを懲らしめよう!」

スープを飲み終えるとマリオ達は村長の家を出た

マリオ「それじゃ、フリーズパレスに向けて出発!」

ルリナ&バツガルフ&ミルフィー「おお————!」

バツガルフを仲間に加え、フリーズパレスを目指してマリオ達は出

発した

第28話終わり

第29話 雪の道のスノーキラー

フリーズパレスを目指して出発したマリオ達
進むとアイスジュゲムが襲つて来た

次々と氷のパイポを投げつけるアイスジュゲム

ルリナ「カゲぬけパンチ」

バコオオオオン

カゲぬけパンチでアイスジュゲムを倒すルリナ

バッガルフ「ライトニングキュー！！！」

マリオ「ファイアボール」

地上に落ちたアイストゲゾーもマリオとバッガルフが一掃する

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

進んでいくと道が途切れていった

マリオ「それ

クルン

次元技を使うマリオだが、奥に行ける通路はない

ミルフィー「それ」

パアアアアアア

不思議な力を使い、見えない足場を出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させた足場を使って渡つていく

渡りきると今度はスノーキラー大砲が3台あった

ドンドンドンドン

スノーキラーを次々と打ち出すスノーキラー大砲

ルリナ「ファイア・ウイップ！－！」

マリオ「ファイアボール！－！」

ボボボボボボボボボ

ファイア系の技で次々と倒すマリオとルリナだが、いくら倒しても
出てくる

バッガルフ「マリオくん達はスノーキラーを、私が大砲を破壊する」

マリオ「わかった」

マリオとルリナはスノーキラーの撃退、バッガルフが大砲に攻撃

バツガルフ「一点集中放電！！！」

破壊力を一か所に集めた電撃でスノーキラー大砲を次々と破壊する
バツガルフ

撃ちだされたスノーキラーもマリオとルリナが殲滅

スノーキラーを倒し、先に進むマリオ達

一方こちちはフリーズパレス

一匹のアイスプロスが報告しに来た

アイスプロス「スノーザー様、先ほど何者がスノーキラー大砲を
破壊したそうです」

スノーザー「中々の強者だな、お前は再び警備を続ける」

アイス「ハッ！」

スノーザーの命令を受け、再び警備を続けるアイスプロス

スノーザーの手には何やら宝石が握られてた

フリーズパレス目指してマリオ達はひたすら進むのだった

第29話終わり

第30話 メフィストの秘密

フリーズパレスを目指して進むマリオ達

マリオ達から離れた所ではタルトウートが退屈そうにしていた

タルトウート「ヘクショイ、うう…………さむ…………」

体をガタガタ震わせながらマリオ達を待つタルトウート

そしてマリオ達は凍りの道を歩いてた

ツルン ツル――

足を滑らせてしまい、転ぶマリオ達

数十秒後、やっと勢いが止まつた

マリオ「いて――」

ルリナ「……ビビキをわってんのよ――――」

ガン――！

バツガルフ「あいたあああ

顔を赤くしてバツガルフを殴るルリナ

ミルフィー「ケンカしないで――！」

大声でケンカを止めるミルフィー

ルリナ「こんな事してる場合じゃないわね」

バッガルフ「ドリームジューエルを集めるといつ重要な役目があった」

一方こちちは暗黒魔殿

メフィストが自分の部屋で何やら写真を見つめていた

コンコン

誰かがノックすると、メフィストはその写真を慌てて隠した

シフォリア「失礼します」

メフィストの部屋に入つていくシフォリア

メフィスト「シフォリアか」

シフォリア「メフィスト様、タルトウートからの報告です、マリオ達はまだ見えてないそうです」

メフィスト「そつか、だがその内来るだろ?」

別の部屋ではパフェーラがパネポン、モンブランボが筋トレをしていた

モンブランボ「フン—フン—フーン!—!」

「マリオ達との再戦に備えて筋トレをするモンブランボ

パフェーラ「次に会った時があんた達の最期よ」

パフェーラもパネポンをしながら次なる作戦を考えていた

その頃マリオ達はフリーズパレスを目指していた

少し進むと看板があった

看板を読み始めるバツガルフ

バツガルフ「えーと……、この先のスノーロードの先に聖なる建物
あり

ルリナ「フリーズパレスの事ね」

マリオ「ようじーのまま一気に行くぞ

勢いよく走つていくマリオ達

数分後、タルトウートと遭遇した

タルトウート「やつと来たね、あんまり遅いから帰つちやうとこだ
つたよ

ミルフィー「あんたは！」

マリオ&ルリナ「タルト」

タルトゥート「ノンノン、タルトゥートだよ」

名前を間違われてるが、タルトゥートは怒らず、正しい名前を教える

タルトゥート「メフィスト様の命令でボクが直々に遊んであげよう」

バッガルフ「メフィストの手下のようだな」

ルリナ「そこを通らせてもいいわよ」

マリオ「どうしてもなら、力づくまでだ」

戦闘体勢に入るマリオ達、果たしてタルトゥートを倒せるのか？

第30話終わり

第3-1話 ヴシタルトウートー怪術と次元技の恐怖

タルトウートとの戦闘を開始するマリオ達

バツガルフ「先手必勝！！！」

いきなりタルトウートに攻撃を仕掛けるバツガルフ

タルトウート「フッフン」

クルン

バツガルフ「何つ！？」

次元技を使い、バツガルフの攻撃を避けるタルトウート

マリオ「あいつも使えるのか」

ルリナ「バツガルフ気を付けて！そいつ次元技を使えるみたいよ」

クルン

タルトウート「それだけじゃないよ」

次元技を解除し、バツガルフのすぐ目の前に現れるタルトウート

タルトウート「うは——」

ムワアアアアア

バッガルフ「何をする?」

怪しげな術をバッガルフにかけるタルトウート

バッガルフ「スパークリングサンダー!!!」

スパークリングサンダーをタルトウートめがけて放つバッガルフ
しかし電撃はマリオ達の方へ向かっていく

電撃をよけるマリオとルリナ

マリオ「どこを狙ってんだ!?」

タルトウート「この術にかかると思い通りに攻撃できないのさ」

ルリナ「マリオは次元技を使いながら待ち伏せて、こいつはアタシ
とバッガルフが」

マリオ「わかった」

3D視点をマリオ、2D視点はルリナとバッガルフで攻撃

タルトウート「フフフ」

クルン

次元技を使うタルトウートだが、マリオの前に出てしまった

マリオ「ファイアーナックル！――」

ボゴオオオオ

タルトウート「あつ――」

マリオの攻撃でダメージを受けるタルトウート

タルトウート「し……しまつた」

次元技を解除し、ルリナとバツガルフの前に現れる

タルトウート「キミには」れを

ルリナ「魔法の炎！――」

ゴオオオオ

タルトウート「うわああああ

ルリナに何かの術をかけようとしたタルトウートだが、阻まれてしまう

タルトウート「こ、今度こそ……」

再び術を仕掛けるタルトウート

シビビビビビビビ

ルリナ「…………?、全然平気ね、魔法の炎！――」

ゴオオオオオ

ルリナ「キャアアアツ！？」

魔法の炎を使った途端、自分でダメージを受けるルリナ

タルトウートはルリナにどんな術を使ったのだろうか？

果たしてマリオ達はタルトウートを退けて先に進む事ができるのか？

第31話終わり

第32話 タルトウート撃退！ドカーンハンマー炸裂！！

マリオ達とタルトウートの戦闘は続く

バッガルフ「貴様！何をした？」

タルトウート「この術にかかつた者は技を使うと自分がダメージを受けるのさ」

ルリナ「それがどうしたっていうの？だつたら普通のパンチで攻撃するまで」

ルリナも同じ過ちは繰り返さず、今度はただのパンチで攻撃する

カアアアアアアン

パンチでダメージを受けるタルトウート

タルトウート「中々やるね、僕も本氣でやらせてもらつよ」

そう言つと、タルトウートが3人に増えた

3人に増えたタルトウートは一斉に攻撃した

カカカカカカカカン

パンチで杖で攻撃を次々と弾き返すルリナとバッガルフ

そこへ次元技を解除したマリオも現れ、タルトウートに攻撃する

フツ
スカツ

しかし攻撃したのは分身の方だった

タルトウート「本物はここだよ」

バシイイイイ

マリオ「ゲーム」

横からマリオを攻撃するタルトウート

ミルアリー——世めてあいつの動きが分かれば、そうだ……』

ミルフライには不思議な力を使い、本物のタルトウイートを見極める

ホワアアアアアアア

「マリオ！ あいつが本物よ！！」

マリオ - わかってた
エカーニンパン

ドカンハンマーでミルフィーが指を掻いたタルトガートを攻撃するマリオ

ドガアアアアアアアアアア

タルトウート「ノ-----！」

「マリオ、まだやる気か？」

怒りの表情で腕をポキポキ鳴らしながら近づくマリオとルリナとバツガルフ

タルトウート「今日はこの辺にしつこいつ、でもキミ達とはまた遊びたいねグッバイ」

そつまうじタルトウートはその場を去つていった

バツガルフ「危ないところだつたな

マリオ「先を進もう」

タルトウートを撃退したマリオ達はさうに先を進んでいく

少し進むとホワイトガボンが現れた

ルリナ「ファイア・ウェーブ」

ファイア・ウェーブでホワイトガボンを倒すルリナ

ホワイトガボンを倒し、先に進むマリオ達

進んでいくについにスノーロードに到達した

マリオ「ついにスノーロードに着いたぞ」

バツガルフ「この先にフリーズパレスが」

ついにスノーロードに入ったマリオ達、目指すフリーズパレスまで

あと少しだ
第32話終わり

第33話 氷の道スノーロード

スノーロードに入つていったマリオ達

一方こちらはフリーズパレス

1匹のホワイトガボンがスノーゾーに報告しに来た

ホワイトガボン「スノーゾー様、スノーロードに侵入者です」

スノーゾー「直ちに追い払え」

スノーゾーは部下たちにマリオ達の撃退を命ずる

そしてマリオ達はスノーロードを進んでた

少し進むとホワイトガボンとアイスプロス2体が襲いかかった

マリオ「アイスボール返し!!!」

ルリナ「ファイア・ウイップ」

バツガルフ「雷撃!!!」

カキーネン バシィイイ ドオオオン

技を使い、敵を倒しながら進むマリオ達

進んでもいくと水路があつた

ルリナ「デス・エンド・フレイム……」

バシャアアアアア

フルパワーで水の中にデス・エンド・フレイムを放つルリナ

ルリナ「これで少しばかりはよ

マリオ「よし、行こう」

水の中に入つていくマリオ達

マリオ「キノコ城の水と同じくらいだ

ルリナのデス・エンド・フレイムでスノーロードの水はキノコ城の水と同じくらいの温度まで上がつてた

バッガルフ「もたもたするな！また寒くなつてくれるぞ

マリオ達はスノーロードの水の温度が元に戻らないうちに急いで泳ぐ
数十秒後、マリオ達は水の中から出た

マリオ「さむ……」

バッガルフ「は、はや……く……」

ずぶ濡れでガタガタ震えるマリオ達

ルリナ「魔法の炎」

ボオオオオオ

魔法の炎でマリオ達を温めるルリナ

温めてる最中にアイスプロスが襲つてきた

アイスプロス「覚悟……！」

ルリナ「取り込み中に攻撃しないでくれる?」

ボオオオ

アイスプロス「ギャアアアアア」

炎を飛ばしてアイスプロスを倒すルリナ

アイスプロスを倒すと、ルリナは再びマリオ達を温める

数十分後、マリオ達が立ち上がった

マリオ「ありがとう、十分温まつたよ

ミルフィー「フリーズパレスまであと少しです」

マリオ達はフリーズパレスを目指してさらに進んでいく

一方こちらはフリーズパレス

アイスプロスがスノーゾーに報告しに来た

アイスプロス「スノーゾー様、侵入者が近づいてます」

スノーゾー「急いでこの建物の全ての仕掛けを作動せろ」

アイスプロス「はい！急いでフリーズパレスの全仕掛けを作動させるんだ！！」

アイスプロス達は大急ぎでフリーズパレスの全ての仕掛けを動かしにかかりた

第33話終わり

第34話 目指せ！スノーロードの山頂

スノーロードを進んでいくマリオ達

少し進むとルリナが走ってマリオをかばつた

ドオオオオオオオン

なんと上から氷のギロチンが落ちてきた

ルリナ「ふう……、大丈夫？」

マリオ「ありがと」

バツガルフ「びっくりした……」

マリオ「この先もさつきみたいな仕掛けがあるかもしれない」

マリオ達は前はもちろん、上下にも気を付けながら進んでいく

進んでいくと巨大な氷塊が転がつて来た

ガガガガガガ

ルリナ「カゲがくれ」

シユウウウウン

影の中に入つてやります」「マリオ達

氷塊が通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

進んでいくと道が途切れていた

ミルフィー「まかせて！」

ピカアアアア

ミルフィーは不思議な力で見えない階段を出現させた

マリオ達はミルフィーが出現させた氷の階段を上っていく

一方こちらは暗黒魔殿

タルトウートが戻ってきた

タルトウート「思ったより強いね、あいつら」

メフィスト「お前の術を持つてしても止められぬとは」

シフォリア「メフィスト様、少々の間、外出させてもらいます」

シフォリアは外に出て行つた

シフォリア「もう一人仲間が欲しいところですわね」

シフォリアは自分たちの新しい仲間を加えるため、探しに行つた

その頃、別の部屋ではパフューラがモンブランボがボードゲームで遊

んでた

モンブランボ「バブル崩壊、自分のチップが半分に……」

バブル崩壊のマスに止まってしまい、手持ちのチップが半分になつてしまふモンブラボ

パフューラ「やつた―――!」宝くじで1等大当たり

それに対し、大当たりのマスに止まり、チップが一気に5枚増えた

圧倒的な大差をつけてパフェーラが勝利、

数秒後、タルトウートが入つて来た

タルエガーテー 面白そうだね、僕にもやらせてくれるかい?」「

モンブラン 今度は絶対に勝つ！！

タルトウードも入れて、3人で再びボーダゲームをやるモンブランボラン

一方マリオ達はスノーピークを進んでた

数秒後、
マリオ達は大きな建物の前に着いた

ルリナ「ここがフリー・ズ・パレス」

バッガルフ「この中のどいかにドリームジュエルがあるんだな」

マリオ「気をつけろ、何があるか分からんからな！」

マリオ達は気を引き締めてフリーズパレスの中に入っていく

フリーズパレスの中にはスノーゾーの部下たちが作動させた全ての仕掛けがマリオ達を待ち構えていた

第34話終わり

第35話 氷の神殿フリーズパレス

ついにフリーズパレスの中に入つていったマリオ達

いきなり2匹のアイスブロスが襲いかかって来た

アイスブロス2匹「ピッピッピッピ」

アイスボールを吐きだして攻撃する2匹のアイスブロス

マリオ「ファイアボール！…！」

ゴオオオオオオ

それに対し、マリオはファイアボールでアイスボールを蒸発させ、
アイスブロスに直撃させる

アイスブロスを倒し、先に進むマリオ達

ピシッ

進むといきなり床が割れた

バツガルフ「バツバリアン！…！」

キュオオオオ

バツバリアンを召喚し、マリオを救い上げるバツガルフ

マリオ「サンキュー・バツガルフ」

ルリナ「いきなり床が割れるなんて」

ミルフィー「みんな！」

今度は左右にアイスピームを発射する銃が現れた
ビ―――

ルリナ「カゲがくれ」

シユウウウン ビ―――

影の中に入つてやりすゞマリオ達

ルリナ「ファイア流星群――！」

影の中から手を出して攻撃するルリナ

ドカンドカンドカン

ルリナのファイア流星群で銃は次々と破壊される

トラップをぐぐり抜け、フリーズパレスを進むマリオ達

一方こちちはフリーズパレスの一一番奥の部屋

スノーザーが右手にドリームジュエルを持ってた

ホワイトガボン「侵入者がトラップを次々と突破しています」

スノーアーにマリオたちの事を報告するホワイトガボン

一方マリオ達はフリーズパレスの中を進んでた

ガンッ！！！

ルリナ「いつたあああい」

見えない壁にぶつかってしまい頭を押さえるルリナ

ミルフィーは不思議な力で辺りを調べた

ミルフィー「この部屋は見えない壁の迷路になっているわ」

マリオ「ミルフィー、サポートを頼む」

ミルフィー「まかせて」

マリオ達はミルフィーにサポートしてもらいながら、少しづつ進んでいく

前方に小さな火の玉を一直線に飛ばすルリナ
ルリナ「えい」

火の玉はそのまま壁に当たる

マリオ「ここに見えない壁はないな」

何の罠もなさそうな部屋に入ったマリオ達、このまま突破なるか？

第35話終わり

第36話 突破せよ！フリーズパレスの罠

フリーズパレスの中を進むマリオ達

マリオ達は罠が無さそうな部屋を進んでく

少し進むと突然バツガルフが落ちた

ルリナ「バツガルフ！……」

ヒツセにバツガルフの手をつかんで引き上げるマリオとルリナ

バツガルフ「あぶなかつた……」

冷や汗をかきまくるバツガルフ

ルリナはしゃがんで床を触った

ルリナ「本物と立体映像が混じってるわ」

マリオ達はしゃがみながら床に手をつきながら進んでいく

何とかドアのところまでたどり着き、次の部屋に入るマリオ達

そして今度は鍵がたくさん落ちてる部屋に入るマリオ達

ルリナ「すごい数の鍵ね」

マリオ「とにかく開けよう」

田の前にあるドアを開けようとするマリオ

パキキ

開けようとした途端、マリオが氷漬けになってしまつ

ミルフィー「マリオ！」

バツガルフ「正しい鍵で開かないときのように氷漬けになるだらう、ルリナくんは私とマリオくんを溶かしてくれ」

ルリナ「わかったわ」

今度はバツガルフが別の鍵でドアを開けようとする
しかしこれもハズレで凍つてしまつ

ルリナは氷漬けになつていくマリオとバツガルフを溶かしていく

数時間も溶かし続け、ルリナに疲れが見えてくる

マリオ「それ

ガチャ キイイイイ

鍵でドアを開くマリオ、どうやら正解の鍵のようだ

一方一番奥の部屋ではスノーブームが氷のジグソーパズルを楽しんでた

スノーズー「これは……ここ、これは……そこか……」

別の部屋ではマリオ達がスノーキラー大砲と戦つてた

バッガルフ「プラズマ・シャワー……！」

撃ちだされるスノーキラーを次々と殲滅させるバッガルフ

マリオ「ビッグファイアボール……！」

ルリナ「魔法の炎……！」

ダブルファイア攻撃でスノーキラー大砲を破壊するマリオとルリナ

全てのスノーキラーを倒すと赤い鍵が落ちてきた

赤い鍵をしまっておくマリオ

別の部屋に入り、進んでいくマリオ達

いきなり横から氷の槍が飛んできた

マリオ「うわっ」

しゃがんで氷の槍を避けるマリオ

今度は下から氷の槍が出てきた

ルリナ「つ……」

ルリナの右手に氷の槍が刺さってしまう

マリオ「大丈夫か！？」

バツガルフ「これで状況は厳しくなってしまった」

頼みの綱であるルリナが怪我してしまい、厳しくなってしまった

マリオ「ルリナはその右手を少しでも回復させるんだ、その間おれがお前の分まで頑張るから」

ルリナ「ありがとう、左手だけで頑張つてみるわ」

右手を怪我したルリナの分まで頑張ろうとするマリオ、そしてルリナも何とか左手だけで技を使いながら進んでいく

果たしてマリオ達はスノーボードのもとに辿り着くことができるのか？

第36話終わり

第37話 3つの鍵を手に入れろ

ドリームジュエルを目指してフリー・ズパレスを進むマリオ達

ルリナが右手を怪我してしまい、状況は厳しくなってしまう

氷の檜の部屋を抜けると、いきなり白い霧に包まれる

ミルフィー「何も見えない」

ルリナ「みんな！そこを動かないで」

マリオ達に迂闊に動かないよう指示するルリナ

数十秒後、霧が晴れて来た

バツガルフ「誰だ？貴様は？」

ミルフィー「バツガルフが2人！？」

霧が晴れるとバツガルフが2人いた

バツガルフA「さては貴様バケバケだな」

バツガルフB「バケバケはお前の方だ」

ケンカしあう2人のバツガルフ

ルリナ「スト-----ップ！！！」

大声でケンカを止めるルリナ

ルリナ「どつちが本物かクイズで決めましょ」

マリオ「俺からいぐぞ、問題、俺とペケダーチが初めて会った場所は？」

バツガルフA&B「ゴロツキタウン」

「ゴロツキタウン」と答える2人のバツガルフ

マリオ「正解です！では第2問、バツガルフを騙していた青い帽子のカゲ族の名前は？」

バツガルフB「マ……マリリン」

バツガルフA「マジョリン、あのくそババア」

マリオ「バツガルフAさん正解です」

バツガルフ「せつと正体を現せ」

偽バツガルフ「こつなつたら全員地獄送りだ」

偽バツガルフは正体をあらわすと、バケバケになつて襲い掛かつた

それに対し本物のバツガルフは杖を高速でくるくる回してた

バツガルフ「エンジェルライト・キュー」

ズドオオオオオン

エンジエルライト・キューでバケバケを一撃で倒すバツガルフ
バケバケを倒すと黄色い鍵と地下への階段が現れた

黄色い鍵を手に入れ、地下へ降りていくマリオ達

降りると扉も何もなく、あるのは氷のスライドパズルのみ

マリオ「おれに任せ」

スライドしてパズルを動かすマリオ

数分後、パズルが完成し、扉が出現した

扉を通つて、次の部屋に進むマリオ達

次の部屋は向こう側の扉までの足場がない

ミルフィー「私に任せて」

パアアアアア

不思議な力で見えない氷の足場を出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させた氷の足場にのつて進んでいく

渡り切り、次の部屋に入るマリオ達

次の部屋は4つのヒントがあり、奥には鍵が三重にかかつた三色の扉があった

マリオ「何か書いてある？」

マリオは近くにある張り紙を読んだ

マリオ「えーと、鍵が欲しけば『言葉を言え』

ヒント1 水に関係している

ヒント2 生きた人は乗つてない

ヒント3 「ん」が最後

ヒント4 疎点は一つもない

ミルフィー「ドリームジューエルはこの奥にあるわ」

ルリナ「わかったわ、答えは幽霊船」

ピンポーン チャリ

ルリナが幽霊船と答えると正解音と共に青い鍵が落ちてきた

マリオ「これで鍵が3つ揃った」

赤と青と黄色の鍵を使い、扉を開けるマリオ達

数々の罠を突破し、マリオ達はついにフリーズパレスの一一番奥の部屋に辿り着いたのだった

第37話終わり

第38話 氷つく脅威！スノーザーの氷攻撃

ついにフリーズパレスの一一番奥の部屋に辿り着いたマリオ達
入るとそこにはスノーザーがいた

しかもスノーザーの手にはドリームジュエルが握られてた

ミルフィー「見て！ドリームジュエルよ」

スノーザー「あの罠をよく抜けられたな」

バツガルフ「溶かされたくなかったら今すぐそいつを渡してもらおうか」

スノーザー「嫌だな、それよりお前達にはこの神殿の魔除けの氷像
にでもなつてもらおうか」

ドリームジュエルを渡せと要求バツガルフだが、スノーザーはマリ
オ達を氷漬けにするつもりだ

スノーザー「始めようか、氷のショーを、アイスピーム」

ビィイイイイイ

スノーザーのアイスピームで戦闘が開始した

マリオ「ファイアボール」

ファイアボールを投げつけるマリオ

スノーザー「フ―――」

カチ―――ン

バツガルフ「何！？」

吐息でファイアボールを凍らせてしまうスノーザー

マリオ「流石にここにボスだけあるな」

ルリナ「今度はあたしが、はあああ――！」

左手から凄い勢いの炎を発射するルリナ

スノーザー「むうううう――！」

それに対し、スノーザーも凄まじい冷氣で蒸発させる

ジュワアアアアアア

攻撃が相殺し、辺りに水蒸気が広がる

ミルフィー「せめてルリナが右手を怪我してなければ」

マリオ「あんな奴瞬殺してドリームジュエルゲットだらうな

数秒後、水蒸気が晴れてスノーザーの姿が見えてきた

スノーゼー「アイスショー」

小さな無数の冷氣の玉を出現させるスノーゼー
ヒィイイイイイン

冷氣の玉を一度に全部発射するスノーゼー

マリオ「ファイアボール乱れ打ち……！」

ルリナ「魔法の炎！……！」

バツガルフ「ライトニング・ショット……！」

必殺技でスノーゼーの冷氣の玉を全部かき消すマリオ達

スノーゼー「チェックメイト」

ミルフィー「いつの間に？」

いつの間にかルリナの左腕を握っていたスノーゼー

スノーゼー「フリーズショック」

パキキキキキ

フリーズショックでルリナの左腕が凍つてしまつた

バツガルフ「しまつた」

ルリナの両腕が使用不能になってしまい、大ピンチのマリオ達

スノーザー「ブリザード……！」

口から吹雪を吐き出すスノーザー

ルリナ「あたしにつかまつて！カゲがくれ……！」

シユウウウウン

マリオ達はルリナにつかまりながら一緒に影の中に入っていく

カゲがくれでブリザードを避けたマリオ達

厳しい状況になってしまったマリオ達、果たしてスノーザーを倒せる手はあるのか？

第38話終わり

第39話 氷を溶かせ！ルリナ必殺のファイア・ストーム

マリオ達とスノーズーの戦闘は続く

スノーズー「つらら流星群！？！」

無数のつららを流星群のように降らせるスノーズー

バッガルフ「ぐあああ」

つらら流星群の1つに当たってしまふバッガルフ

スノーズー「フフフフフ、次は絶対零度！？！」

パキキィイイイ

計り知れないほどの冷気で攻撃するスノーズー

ミルフィー「あああああ」

バッガルフ「危ない！？！」

カチー———ン

ミルフィーをかばってバッガルフが氷漬けにされてしまふ

マリオ＆ルリナ「バッガルフ！？！」

スノーズー「まずは一体」

マリオ「赦さない、スーパーファイアボール！！！」

ドオオオオオオン

スノーゼー「ぐわああああ

スーパーファイアボールをスノーゼーにクリーンヒットさせるマリオ

マリオ「あたたたたたたたたたた」

容赦ない炎攻撃を連発させるマリオ

スノーゼー「うおおおおお

ルリナ「マリオ！その調子よ

徐々にスノーゼーを追い詰めていくマリオ

スノーゼー「調子に……乗るな――――」

スノーゼーの怒涛の冷気攻撃でマリオまでも凍つてしまつ

スノーゼー「次はお前の番だ」

ルリナ「あんただけは許さない、ファイア・ストーム――――」

右手でファイア・ストームを放つルリナ

スノーゼー「アイスピーム」

それに対し、スノーザーもアイスピームを発射する

ルリナ「く……」

右手の痛みに耐えながら放ち続けるルリナ

ミルフィー「ルリナがんばって」

ルリナの応援をするミルフィー

スノーザー「お前も氷漬けになつて魔除けの氷像になるがいい」

ルリナ「お断りよ、あたし達にはまだ行かなきやならない所がある
んだから」

ルリナの気迫はスノーザーを徐々に圧していく、そして……

ゴオオオオオオオオ

スノーザー「ぎゃああああああ」

ミルフィー「やつたー」

ファイア・ストームでスノーザーを倒したルリナ

数分後、マリオとバッガルフの氷も溶かした

バッガルフ「うん……」

マリオ「あいつは？」

ミルフィー「ルリナがやつづけてくれたよ、それから」「

手に入れたドリームジュエルを見せるミルフィー

バッガルフ「やつたな」

マリオ「よくやつたぞ、ルリナ」

ルリナ「それよりユキリン村に行つて何か温かいものが欲しいわ」

マリオ「そうだな」

マリオ達はフリーズパレスを跡にし、ユキリン村に向かつて行つた
スノーブームを倒し、4つ目のドリームジュエルを手に入れたマリオ
達、残るドリームジュエルも4つだ

第39話終わり

第40話 ピーチ姫が危ない！迫るシフォリアの魔手

ドリームジュエルを手に入れ、ユキリン村に向かうマリオ達

一方こちらは暗黒魔殿

パフェーラ「あー……たいへつ……」

あまりに退屈でやる気のないパフェーラ

タルトウート「慌てず待つていればチャンスは来るから」

モンブラボ「そういえば、シフォリアは？」

メフィスト「シフォリアなら出かけて行つたぞ」

一方こちらはキノコタウン

シフォリアがお城を目指して歩いてた

シフォリア「私達の新しい仲間に相応しい人を探さないと」

そしてこちらはキノコ城

ピーチ姫が花壇の手入れをしていた

ピーチ姫「マリオ……」

マリオ達の無事を祈りながら花壇の手入れをするピーチ姫

その頃マリオ達はコキロン村の村長の家にいた

温かいスープを飲んで体が温まつていへマリオ達

バッガルフ「こここの場所ではやつぱいれだな」

ルリナ「温まるわ」

マリオ「あいつに氷漬けにされた時はひえひえしたよ、ひえーー」

カチーーーン

ルリナ&ミルフィー「さむ……」

マリオのあまりにも寒いギャグに凍つてしまつルリナとミルフィー

コキリ「みんな仲がいいのね」

村長「お前やんらほこれかひじつする気だ?」

マリオ「もうりん残りのドリームジムホールを集めに行きます」

コキリ「こんな話知ってる?迷路のような空間があつて、そこに迷いつと雪になるまで出られないの」

マリオ「おにおこ冗談じゃないぜ、それならサルガツゾーンの方がましだ」

コキリの話を聞いて怖氣づくマリオ

コキリ「セニは確かラ……ラ……ラ……」

マリオ&ルリナ&バッガルフ「ラ?」

コキリ「ごめん、忘れた」

ドサッ

コキリのど忘れにこけるマリオ達

そしてこじらはキノコタウンのキノコ城付近

シフォリア「次は新入りにマリオ達の始末を」

一方ピーチ姫は自分に危機が迫っているとも知らず、お茶を飲んでた

マリオ達もピーチ姫に危機が迫っているとも知らずにいた

バッガルフ「私は4のビルを出そつ」

ルリナ「あたしは4のエンジエル」

マリオ「それなら7のウィザード」

カードゲームで遊ぶマリオ達

シフォリア「あなたも頑張ってもらひつわ、メフィスト様のために
ピーチ姫を操るうと、シフォリアはキノコ城へと向かっていくのだ

つ
た
第40話終わり

第41話 塹ちたペーチ姫

ゴキリーン村の村長の家でくつろぐマリオ達

村長「今日はここに泊まつていきなさい」

マリオ「今日はここに泊まつて、畠田出かぬよ」

ルリナ「賛成」

村長の家で一泊する事にしたマリオ達

そして「ひはキノ」「城

カゲ三人組が遊びに来ていた

ビーバー、「ペーチ姫、こんなにひは」

ペーチ姫「まあ三人お揃いで」

マジコリン「遊びに来ただわさ」

マコリン「んあ～～」

ペーチ「やつ、でも今読書してゐから、密室で待つてもいられないか
しり」

マジコリン「お言葉に甘えさせたりもしないとか」

ビビアン達はピーチ姫の読書が終わるまでの間、密室で待つことにした

「ビビアン、どうして遊ぶ？」

マリリン「んあ～んあんあ～～

マジヨリン「マリオテニスだって、冗談じゃないよー」マリオパーテイだよ

マリリンの言葉を通訳し、自分が有利なゲームを要求するマジヨリン

ビビアン「アタイ、マリオカートがいい

ビビアンも得意なゲームを要求する

3人とも自分が得意なゲームをやりたがっている

睨みあつてけんかするカゲ三人組、しかし……

マジヨリン「ここは平和的にジャンケンで決めよう

ビビアン&マジヨリン「最初は

マリリン「んあ～～

3人とも違つのを出していた

マジヨリン「ビビアン！最初はグーだろーー！」

ビビアン「お姉さまの行動の一つへりこお見通しよ」

マジヨリンがパーを出すのを予測してチヨキを出していたビビアン

マリリンはそのままグーを出していた

数回のあいこが続き、ビビアンが勝利

ビビアン「やつたあ

仕方なくマジヨリンとマリリンもマリオカートでプレイ

キャラクターとカートが決まり、いよいよコース選び

ビビアン「コースはお姉さまに選ばせてあげる」

マジヨリンはなるべくビビアンが不利そうなコースを選ぶ

遊んでいるうちにシフォリアが城に入つて来た

一気にピーチ姫の部屋に向かうシフォリア

ピーチ姫「キャラアアアアア」

マリリン「んあ」

マジヨリン「ピーチ姫の悲鳴」

ピーチ姫の悲鳴を聞いたビビアン達は急いで部屋にかけつけた

ピーチ姫「あなた一体何者…？」

キッとした表情で話しかけるピーチ姫

シフォリア「呑くしてもらいますよ、メフィスト様のために」

ビビアン「あんたがルリナから聞いていたメフィストの手下の一人ね」

マジヨリン「あんたなどルリナ様の手をわざわざせるまでもないぞ」

シフォリアに一斉攻撃をしかけるマジヨリン達

数分で決着がつき、カゲ三人組はみんなボロボロだ

シフォリア「あなた達の相手をしてる場合ではないのです、ピーチ姫、はああああ」

キュワワワワワワ

両手から強力な催眠波を出すシフォリア

ピーチ姫「何これ……」

シフォリアの催眠波を浴びせ続けられるピーチ姫

数十秒後、ピーチ姫の態度が一変した

シフォリア「では行きましょ」

シフォリアはペーチ姫と一緒にどこかへ行ってしまった

數十分後、ビビアン達が目を覚ました

ビビアン「ペーチ姫は？いない！」

マジヨリン「ビビアン、あんたはこの事をルリナ様に報告じや」

ビビアン「わかつたわ」

ビビアンはペーチ姫がいなくなつた事をマリオ達に知らせに行つた
マリオ達はこの事をまだ知らず、ユキリン村の村長の家で一泊して
いたのだった
第41話終わり

第42話 ルパンとの誓い

ピーチ姫が洗脳された事を知らずにコキリン村で一泊するマリオ達
一方こちらは暗黒魔殿

シフォリアが帰つて來た

シフォリア「メフィスト様、ただいま戻りました」

パフェー「どこ行つてたの?」

シフォリア「探してたのです、私達の新しい仲間を」

モンブラボ「そいつは今どこいるんだ?」

シフォリア「ある場所に送りました」

タルトウート「ラビリンスファンтомだね」

シフォリア「さすがねタルトウート」

シフォリアが新しい仲間をラビリンスファンтомに送り込んだのを見抜くタルトウート

メフィスト「もしドリームジュエルもそこにあるなら、その新入りに任せてみよ!」

メフィスト達はマリオ達の始末とドリームジュエルの奪還を新入り

に任せる

そして次の日……

マリオ「さて元氣もいつぱいになつたし」

ルリナ「次のドリームジュエルを探しに行きましょ」

バッガルフ「次のドリームジュエルはどこにあるんだ?」

ミルフィー「分からない……」

マリオ&ルリナ&バッガルフ「ええ～～～！？」

次のドリームジュエルの場所はミルフィーも分からないらしい

ミルフィー「でも感じるの……別次元の空間にあるよつな氣がするの
……」

マリオ「それって、サルガッゾーンみたいなどこか?」

ルリナ「その可能性はあるわね」

バッガルフ「とにかくそこに行ける方法はあるはずだ」

マリオ達は次のドリームジュエルを手に入れるため、別次元の空間
に入る方法を探し始める

探しているうちビビアンが来た

ルリナ「ビビアン！」

ビビアン・リー・チ姫が……いなくなつちやつたの……！」

マリオ&ルリナ&バッカルフー!!!!!!

ヒー子姐かしなぐなーた事を知り
驚くマリオ達

ヒビアン 昭田 土 三 塚はシテ不思の三十がヤ てきだS

「マリオ、ヒーヒ姫をやるーたのはせーいつた！？」

モソンハテホドハヨニヒトタリエテアノ耳真を見せるマリオ

「アーマン」の母の謹でもないわ

ヒーチ姫を連れていこうたのはシフオリアである

『ルフィーもしかしたらシアオリアかも』

バッカ川ノシノニア?

ミルフィー、「スイートランドを襲つた時にメフィストと一緒にいた奴だ」

「わ」
ビビアン「アタイとお姉さまは3人で戦つたけど歯が立たなかつた

シフォリアにペーチ姫を連れて行かれて悔し涙を流すビビアン

ルリナ「ビビアン、ペーチ姫は必ず連れ戻すわ」

バツガルフ「私もかつてペーチ姫にひどい仕打ちをしてしまった、命に代えても取り戻す」

マリオ「絶対にメフィスト達を倒してやる」

ビビアン「ありがと……」「

マリオ達の暖かさに笑顔になるビビアン

ルリナ「ビビアンはマジックロンとマリコンを手伝って行った

ビビアンはマジックロンとマリコンを手伝って戻つていった

マリオ「だが今はドリームジュエルだ、なんとしても残り4つを見つけなければ」

マリオ達はメフィストの野望を止めるためにも残り4つのドリームジュエルを探しにいくのだった

第42話終わり

第43話 スイートラーンの伝説と「コンスマントムへの道

残り4つのドリームジュエルを探すマリオ達

そのうちの一つは別次元の空間にあるらしい

進んでこらへるうちに2匹のクリボーの話し声が聞こえた

マリオ達はクリボー達の会話を隠れて盗み聞きする

クリボー A 「ラビリンスファンタムって、知ってるか？」

クリボー B 「一度迷うと2度と出られないって、どうあれだろ」

ミルフィー 「ラビリンスファンタム？」

クリボー達に気づかれぬよう、小さな声で喋るミルフィー

クリボー A 「俺は絶対そこに行かないぜ」

クリボー B 「命あつてのものだね」

クリボー達が去っていくとマリオ達は陰から出てきた

ミルフィー 「ドリームジュエルはそのラビリンスファンタムにあるかも」

一方このあたりはラビリンスファンタムはある場所

仮面とフードをかぶった女が待ち伏せしていた

?・?・?「リリがお前たちの墓場よ」

ワビコンスマントムで待ち受けの謎の女

そして、やはりスイートラン

女王が何やら本を読んでいた

ビリヤリスイートランの伝説が書かれている本らしい

そこへキャラミーが来た

キャラミー「女王様、またあの話の続きをして」

女王「はいはい、スイートランは憑しき者に支配され

キャラミーに物語の続きをする女王

女王「憑しき者の名は×××××

かつてスイートランを危機におどこれた邪悪な者の名を言つた女

名前は今はまだ秘密である

女王「そして×××××は闇の奥深くへと封印され、スイートラン
ドに平和が戻つたのです」

数分後、話が終わり静かに本を閉じる女王

一方こちらはキノコワールド

「マリオ達が敵を倒しながら進んでた

マリオ「ファイアボール」

ボッボッボッボッ

ファイアボールでファイアブロスを倒すマリオ

ルリナ「ファイア・ウイップ」

ジュゲム「わあああああ

ルリナもファイア・ウイップでジュゲムを撃退する

バツガルフ「しかしどリームジュエルのある場所は分かつたが、どうやって行くんだ?」

マリオ「う~ん…」

ラビリンスマントムへ入る方法を考えるマリオ達

そこへ変な宇宙人がやって来た

宇宙人「ラビリンスマントムに入る方法なら知ってる

ミルフィー「本当!?」

ラビリンスファンタムに入る方法を知っているという宇宙人、果たして彼は何者なのだろうか？

第43話終わり

第44話 目指せ—ラビリンスファンтом

「ラビリンスファンтомへ行く方法を知っている宇宙人と会ったマリオ達

バツガルフ「ラビリンスファンтомに行く方法を知ってるだとー?」

宇宙人「はい」

ルリナ「じゃあ、あんたはそのラビリンスファンтомに行つたことあるの?」

宇宙人「私も仲間と一緒に行つたことがあります、でもみんなは迷子になつてしまい、私だけが無事に出られたのです」

どうやらこの宇宙人はラビリンスファンтомからの唯一の帰還者らしい

宇宙人「だがやめといった方がいい、あそこに行けば最悪の場合死ぬ

マリオ「いや、俺たちはそこに行かなきゃならないんだ」

ドリームジュエルを手に入れるためにもラビリンスファンтомへ行こうとするマリオ達

宇宙人「本氣か!?

マリオ&ルリナ&バツガルフ「本氣の本氣!—」

す」に気迫で迫るマリオ達

宇宙人「わかった、そこまでの覚悟があるなら教えよう、このずっと先に空間の裂け目がある、そこにお前たちの技をぶつけて大きくするんだ」

「ラビリンスファントムへ入る方法をマリオ達に教える宇宙人

宇宙人「氣をつける、ラビリンスファントムはその名の通り、迷路の空間だ！戻っているのか進んでるのか、右に行ってるのか左に行ってるのかさえ分からぬほどだ」

マリオ「大丈夫！絶対生きて戻ってみせる」

宇宙人「じゃーなーー」

手を振つて見送る宇宙人

一方こちらはラビリンスファントムのとある部屋

女が手を組んで立つていた

？？？「いつでも来るがいい、この私が地獄に送つてあげるわ」

マリオ達を待ち受ける謎の女

そして暗黒魔殿ではメフィストが自分の部屋でモンブラン達とババ抜きをしていた

モンブランの持つている2枚のカードをじっくりと選ぶパフェーラ

ババを取ろうとすれば二タ一とするが、そうでない方を取ろうとする
と寂しそうな顔をしていた

それを見て笑いを堪えるパフェーラとタルトウート

モンブラボ「ああ～～！！また負けた」

10連敗してしまい、悔しがるモンブラボ

メフィスト「ババを取ろうとする時とそうでない時のお前の顔が違
うからわかりやすかつたぞ」

モンブラボ「そななのか？なら今度はすつとの顔だ」

今度はムスッとした顔でゲームをするモンブラボ

タルトウート「おいおい、大丈夫？」

その頃マリオ達はラビリンスファントムを目指していた

とつぜん前方からマグナムキラーが飛んできた

ルリナ「えーーーい！！」

カキー———ン

炎のバットでマグナムキラーをホームランにするルリナ

マリオ「マグナムキラー選手、無念のさよなら負け」

ルリナがマグナムキラーをホームランして実況するマリオ

ミルフィー「野球の実況をやつとる場合か――――――！」

実況するマリオに突っ込むミルフィー

マリオ「あはは、やうでした」

気を取り直して進むマリオ達

ラビリンスマントムに入るため、マリオ達は空間の裂け目がある
場所を目指すのだった

第44話終わり

第45話 進めマリオ一味！空間を裂け田を田端して

ラビリンスマントムに行くため、空間の裂け田を探すマリオ達少し進むと未知が途切れていた

マリオ「それ

クルン

次元技を使うマリオ、すると横に通路があつた

次元技を使いながら進んでいくマリオ達

進むとまた道が途切れていた

クルン

次元技を解除するマリオ、しかしそこは空中だつた

マリオ＆ルリナ＆バッガルフ「わああああああ！？」

真っ逆さまに落ち、次元技を使った所まで戻されるマリオ達

再度次元技を使い、進むマリオ達

さつき次元技を解除して落ちたところまで進んだマリオ達

マリオ「ミルフィー」

ミルフィー「ん～～～」

マリオも今度は次元技を解除せず、ミルフィーの不思議な力を使う
パアアア

不思議な力でブロックを出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させたブロックを足場にして進んでいく
進むと行き止まりだ

クルン

マリオは次元技を解除し、さらに進んでいく

一方キノコ王国ではピーチ姫の大搜索が行われていた

兵士キノピオA「そつちはビツ?..」

兵士キノピオB「全然だめだ」

総力をあげてピーチ姫を探すキノピオ達

そしてマリオ達は空間の裂け目を手指していた

少し進むと巨大な岩が転がつて来た

クルン

次元技をつたが、逃げ場がない

ルリナ「カゲがくれ

シユウウウウン

マリオ達と一緒に影の中に入るルリナ

岩が通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

進んでいくと空間の裂け目があった

バツガルフ「あれだーー！」

ルリナ「ミルフィーお願い」

ミルフィー「んーー」

空間の裂け目に不思議な力を使うミルフィー

すると空間の裂け目がドアに変わり、マリオ達はその中に入つてい
つた

入るとそこはただの一本道の通路だった

ミルフィー「ラビリンスファンтомぐじやないけど、確實にドリーム
ジュエルには近づいているわ

ルリナ「この空間の向こうにドリーンファンтомがあるのね

マリオ達はラビコンスマントムを手出し、空間をさらに移動する
のだった

第45話終わり

第46話 ついに到着！ラピコンスマントム

空間の中へと入っていったマリオ達

進むとバーリヤが現れた

ブオン

バリアを張つてマリオ達の攻撃を防ぐバーリヤ

マリオ「それ

クルン

次元技を使い、バーリヤの死角に回るマリオ

ルリナ「ベーーー」

そしてルリナはバーリヤを挑発して、攻撃を自分に向けさせる

バーリヤのすぐ近くまで来るとマリオは次元技を解除する

マリオ「とつ

ジャンプでバーリヤを倒すマリオ

一方こちゅまラピコンスマントム

ある部屋では謎の女が退屈そうにしていた

謎の女「少し体でも動かしておきましょ」

「マリオ達が来るまでの間、運動を始める謎の女

その頃暗黒魔殿ではメフィスト達が食事をしていた

タルトウート「ムフフフ」

クルン パツ

モンブラボのチキンに次元技をかけて自分のところに出現させるタルトウート

モンブラボ「おれのチキンが！タルトウート……！」

タルトウート「知らないね」

モンブラボ「ふざけんな！お前以外に誰がいるんだ！？」

シラを切るタルトウートに怒るモンブラボ

す「」に喧嘩になり、ケチャップがパフェーラの顔についた

パフェーラ「やつたわね！！」

パフェーラも変身し、3人のケンカになってしまつ

ドガララララ ドオオン

メフィスト「やめんか——————！」

活を入れて3人の喧嘩を止めるメフィスト

シフォリア「食事中みつともないです」

そしてマリオ達は謎の空間を進んでた

進むと大群のタイールが迫ってきた

ルリナ「ファイア流星群！――！」

ボボボボボボボボボ

ファイア流星群でタイールを一掃するルリナ

タイールを倒し、先に進むマリオ達

入ると空間の裂け目を発見

ミルフィー「ん――」

空間の裂け目に不思議な力を使うミルフィー

すると空間の裂け目がブロックに変化した

マリオ「それっ

パシュンパシュンパシュン

ブロックを叩くと、マリオ達はどこかへ消えた

数十秒後、マリオ達は意識を取り戻す

バツガルフ「マリオくん！」

マリオ「バツガルフ、ここは？」

ミルフィー「感じる、この空間のどこかにドリームジュエルが」

ルリナ「じゃあここがラビリンスファンタム」

ついにラビリンスファンタムに辿り着いたマリオ達、果たしてドリームジュエルを手に入れることはできるのか？

第46話終わり

第47話 異次元大迷宮ラビンスファンタム

ついにラビンスファンタムに着いたマリオ達

マリオ「ここにどこかにドリームジュエルがあるのは間違いなさそうだな」

マリオ達はドリームジュエルを探しに行つた

少し進むといき止まりだ

マリオ「それっ」

クルン

次元技を使うマリオ、するとドアを発見した

バッガルフ「こんなとこにドアがあつたとは」

ドアに入つていくマリオ達

ドアから出ると天井に敵がいた

ミルフィー「天井に敵がいるわ」

ルリナ「いえ、目の前にも敵が」

バッガルフ「どっちが上か下か分からんな」

「マリオ」とにかく進むしかない、ファイアボール

マリオ達は敵を倒しながらラビリンスファンタムの中を進んでいく

進むとドアがあり、入るマリオ

ロロロロロ

入ろうとした途端、ドアがモンスターになつた

ルリナ「ファイアウイップ

化けドア「ぎいいいい

ファイアウイップで化けドアを倒すルリナ

マリオ「あぶなかつた、ドアに投してくるとは

化けドアを倒し、先へ進むマリオ達

進んでいくとまたドアを発見した

バッガルフ「あのドアを調べてくれ

ミルフィーは不思議な力で田の前のドアを調べる

ミルフィー「大丈夫、今度は本物のドアよ

本物のドアと分かつたマリオ達は入つていく

入ると今度は左右の壁にタイールがいた

目の前にはブロックがあった

ルリナ「何かしら?」のブロック

ブロックを叩くルリナ、すると左側の壁に着いた

バッガルフ「あのブロックは重力の方向を変えるみたいだな」

再びブロックを叩くマリオ達、当然今度は天井に移動する

天井を移動するマリオ達、奥まで行つたが何もなかつた

マリオ「それつ」

クルン

次元技を使つたが、何もないようだ

ミルフィー「任せて!」

不思議な力で辺りを調べるミルフィー、すると見えないドアを発見した

ミルフィーは不思議な力で見えないドアを出現させる

マリオ達はミルフィーが出現させたドアに入つていく

出ると今度は最初にいた部屋にいるが、逆さまだ

ミルフィー「……て最初にいた場所じゃない！」

ルリナ「でも今は逆さまに立ってるわ」

マリオ「上下左右はおろか、進んでるのか、戻ってるのかさえ分からん」

上も下も右も左も前も後も分からない迷宮ラビリンスファンタム

マリオ達はラビリンスファンタムの奥までたどり着く事ができるのか？

第47話終わり

第48話 回転部屋と3D立体迷路

「パビコンスマントームの中を進むマリオ達

マリオ達は現在、最初にいた部屋を逆さまになつて進んでた

進んだが、行き止まりだ

マリオ「それっ」

クルン

じげんわざを使うマリオ、すると左側に穴があつた

穴に入つていくマリオ達

すると別の部屋に出てきた

そこにはドアが4つあつた

ミルフィー「ん～～～」

不思議な力でドアを調べるミルフィー、全部本物のドアだ

ミルフィー「大丈夫、4つとも本物のドアよ」

ルリナ「これから行く？」

マリオ「まず俺から決めさせてもらひつわ、一番左のドアだ」

一番左のドアに入つていくマリオ達

出るとそこには部屋が回転していた

マリオ「何だこの部屋は！？」

バツガルフ「気分が悪くなつてくる」

ジョンがしながら進んでいくマリオ達

奥まで行くとスイッチがあり、マリオはそれを聞いた

— 1 —

地響きが鳴ったが、すぐに治まつた

ハツカ川ノ今地図は?

スイツチを叫んだマリオ達は戻ってきていた

部屋から出ると、アリスとリカはハッカ川の背中を走った。

ハツカルノニシテモモレシテ咲くところ

ハカル二回第六十九

バツガルフーもう大丈夫だ、次は右から2番目のドアに行こう

バツガルフの指示通り、2番目のドアに入つていくマリオ達

さつきの回転部屋と違い、何もなかつた

マリオ「ミルフィー、念のため調べてくれ」

念のため、ミルフィーに周りを調べてもらひマリオ達

ミルフィー「大丈夫、何もないわ」

マリオ「そうか、じゃ」

ピュー――― ドガツ

マリオ「な……に」

勢いよく走つていぐマリオだが、突然何かにぶつかつた

マリオ「どうなつてるんだ?」

クルン

次元技を使うマリオ、何と周りが迷路になつていた

ルリナ「じつて、迷路よ

クルン

解除すると、何もない部屋になつた

バッガルフ「ここの部屋は2Dで見れば何もないただの部屋だが、

3Dで見れば立体迷路というわけか

マリオ達は次元技を使いながら立体迷路を進んでいく
奥まで進んでいくと、またもやスイッチがあった

ルリナ「さっきの部屋にあったのと同じスイッチね」

再びスイッチを叩くマリオ

先ほどと同様に地響きが鳴つたが、すぐに治まった

ミルフィー「まだわ、何のかしら?..」

マリオ「どこか変化したのは間違いなさそうだな」

ルリナ「それより早く戻りましょ、次はあたしが決めるわ」

ドアが4つある部屋に戻るマリオ達

ルリナ「一番右のドアにするわ」

一番右のドアを指示するルリナ、そこにはどんな罠があるのか?

第48話終わり

第49話 透明ブロックの部屋とスイッチだらけの部屋

ラビコンスマントームの中を進むマリオ達

マリオ達はルリナが指示した一番右のドアに入つていぐ
入るもの凄く高いところにスイッチがあった

マリオ「ぬー————」

足に力をため込むマリオ

マリオ「それ————」

ピュー————ン

マリオ「わああああああ

スーパージャンプをしたが、スイッチに全然届かなかつた

ルリナ「ミルフィー、何かない？」

周りを調べるミルフィー、すると何かあつたようだが、出現させる
ことはできないようだ

ミルフィー「何があるみたい、透明なブロックみたいなものが」

バッガルフ「ミルフィーくん、頼むぞ」

「マリオ達はミルフィーの力を使いながら、透明なブロックを上って
いく

一番上まで上がるとい、マリオはスイッチを叩いた

地響きが鳴ったが、すぐに治った

一方ラビリンスファンタムの別の部屋では謎の女がマリオ達が近づいてるのを感じた

謎の女「誰かこっちに来てるみたいだけビ、メフィスト様に刃向えばどうなるか

マリオ達を倒そうと待ち受けける謎の女

そしてマリオ達はドアが4つある部屋まで戻った

マリオ「最後はこのドアだな」

左から2番目のドアに入つていくマリオ達

入るとスイッチがたくさんあつた

マリオ「これが?」

ボコン ドオオオオン

その中の1つを叩くマリオだが、スイッチは爆発し、ハズレと書かれた紙が出てきた

バツガルフ「バツバリアン！！」

バツバリアンを召喚するバツガルフ

バツガルフ「あのスイッチを片っ端から叩いてくるのだ」

バツガルフの指示通り、スイッチを叩いていくバツバリアン達

バツガルフはバツバリアンを次々と召喚する

多くのバツバリアンを犠牲にしながらも、スイッチは残り1つとな
つた

ルリナ「これね」

最後のスイッチを叩くルリナ

ドオオオオオオオオン

マリオが最初に叩いたのより、10倍の爆発がなり、ハズレと書か
れた紙が出てきた

マリオ「どういう事だ？ミルフィー！」

マリオに言われ、部屋の中を調べるミルフィー

するともう一つスイッチあつた

不思議な力でスイッチを出現させるミルフィー

「マリオ、もう一つあつたとは」

バッガルフ「これが本物のようだな」

ミルフィーが出現させたスイッチを叩くバッガルフ

今度は本物で、地響きが鳴った

数秒後、地響きが治まつた

マリオ達はドアが4つある部屋まで戻つた

戻つてみると土管が2つあるが、片方には鍵がかかつてた

ルリナ「鍵がかかつてる方の向こう側にドリームジュエルがあるかも」

バッガルフ「その可能性は大だ、まず鍵を探してこないと」

土管の鍵を探しに、もう一つの土管に入つていくマリオ達

ラビリンスマントームを進むマリオ達、目的のドリームジュエルまであと少しだ

第49話終わり

第50話 衝撃のミス・プロンセス・モモ

ドリームジュールのある部屋を出でて、ラビコンスマントムを進むマリオ達

土管から出ると、マリオたちは天井にいた

進んでいくとスイッチがあり、マリオはそれを叩いた

グレン

スイッチを叩くと、マリオ達は床についた

スイッチを切り替ながら、天井と床を進んでいくマリオ達

奥まで行つたが、何も無かつた

マリオ「それ

クルン

次元技を使うマリオ、すると横にドアがあつた

ドアに入つていくマリオ達

出るとそこにはタイールとブートンがいた

ルリナ「魔法の炎ー！」

魔法の炎で一気に敵を倒すルリナ

しかしブートンは体が小さくなつただけだった

体が小さくなつたブートンはスピードが上がつてた

バツガルフ「速い！？」

マリオ「氣をつける、ここつは体が小さくなると動きが速くなるんだ」

ルリナ「ファイア・ウェイプ」

バシィイイン

ファイアウェイプで攻撃し、またブートンが小さくなつた

マリオ「あと1発だ」

しかしブートンのスピードは異常なほどになつていた

バツガルフ「速すぎて狙いを定められない」

ルリナ「魔法の……きやつ」

マリオ「ファイア……わつ」

技で攻撃しようとするとマリオ達だが、体当たりで阻止をされてしまう

バツガルフ「私がやぶつ」

バツガルフは心の目でブートンの動きを見極める

バツガルフ「…………、そこだ！……」

ビシャアアアアン

杖から電撃を出して攻撃するバツガルフ

見事ブートンに命中し、倒した

ブートンを倒すと鍵が現れた

ミルフィー「これってさっきの土管の鍵じゃ？」

マリオ「きっとそうだ」

鍵を手に入れたマリオ達は土管のどこまで戻つて行つた

戻ると鍵のかかった土管に鍵を使った

鍵を外すと土管が通れるようになり、マリオ達はその土管に入つていく

土管から出ると田の前にはドリームジュエルがあつた

マリオ「ドリームジュエルだ！」

ミルフィー「やつたーー」

ドリームジュエルをゲットし、喜ぶミルフィー

バツガルフ「ここを出て次のドリームジュエルを探そう」

ボコン

ミルフィー「キャッ」

マリオ達がラビリンスファントムを出ようとした途端、何者かがミルフィーを踏みつけ、ドリームジュエルを奪った

謎の女「これがドリームジュエル」

ルリナ「何者なの!?」

キッとした表情で問いかけるルリナ

謎の女「ワタクシはメフィスト様の『ゴーフロイス...ミス・プリンセス・モモ』

ミス・プリンセス・モモと名乗る謎の女

ミス・プリンセス・モモ、メフィスト様はある目的のためにドリームジュエルを集めていらっしゃる、残りもそちらへ渡してもうあつか

ルリナ「そう簡単に渡すわけないでしょ!」

ミス・プリンセス・モモ「それなら少し痛い目にあってもらおうかしら

マリオ達の前に現れた謎の女、ミス・プリンセス・モモ、果たして
マリオ達はミス・プリンセス・モモからドリームジュエルを取り返
せるのか！？

第50話終わり

第51話 ミス・プリンセス・モモの秘密兵器

ミス・プリンセス・モモとの戦闘になつたマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「これでもくらえ」

ジャンプし、空中から攻撃しようとするミス・プリンセス・モモ

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

バキヤ

しかしルリナは高く伸びあがり、ミス・プリンセス・モモを上から叩きつける

ミス・プリンセス・モモは体勢を立て直し、着地に成功する

ミス・プリンセス・モモ「ピンクハリケーン！！」

ビュワアアアアア

ピンクハリケーンで攻撃するミス・プリンセス・モモ

マリオは余裕でかわし、反撃に出る

マリオ「ファイアボール！！」

ルリナ「魔法の炎！！」

ボボボボボ ボオオオオ

ミス・プリンセス・モモ「あああああああ

ダブルファイア攻撃に怯むミス・プリンセス・モモ

さらにはそこへバツガルフが一撃を仕掛ける

バツガルフ「エレクトサンダー！…！」

バアアアアアアン

エレクトサンダーで壁まで吹っ飛ぶミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「ちくしょう、ここまでとは」

マリオ「ドリームジュエルを返してもらおうか」

ミス・プリンセス・モモ「こうなつたら奥の手を使つわ」

そう言つとミス・プリンセス・モモは手に持つたリモコンのボタンを押した

ピピピピピピピ

何かが近づく音がして來た

数秒後、マリオ達の前に大きなロボットが現れた

バツガルフ「うちのバツテンダーよりダサいな」

ミス・プリンセス・モモ「これが私の最高パートナー、プリティーレインガー」

マリオ「プリティーレインガー？」

プリティーレインガーに乗り込むミス・プリンセス・モモ
ミス・プリンセス・モモ「お前らをここでプリティーレインガーノ
餌食にしてやる」

マリオ「来るぞ」

構えを取るマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「ヘルズ・ファイア――――――！」

左手から凄まじい勢いの炎を発射するプリティーレインガー

ルリナ「カゲがくれ――――！」

シユウウウウン ゴオオオオオオ

カゲがくれでヘルズ・ファイアを避けるマリオ達

ルリナ「魔法の炎――！」

ミス・プリンセス・モモ「ヘルズ・ファイア――！」

ゴオオオオオ ドン

互いの炎がぶつかり合い、相殺

マリオ「あの口ボ、結構やるな」

ルリナの魔法の炎と互角の威力を持つヘルズ・ファイアに少々驚く

マリオ

果たしてプリティーレインガー攻略の策はあるのか？

第51話終わり

第52話 バッガルフ戦闘不能！脅威のジ・オブ・キャノン

マリオ達とミス・プリンセス・モモの戦闘は続く

プリティーレインガーでマリオ達を襲うミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「チーンシザーカッター」

胸から鎖付きのカッターを発射するプリティーレインガー

マリオ「スピンドラク」

ジャンプし、上空からスピンドラクでチーンシザーカッターを落とすマリオ

ミス・プリンセス・モモ「次はこいつで攻撃だ」

今度は数えきれないほどのエネルギー弾を出現させるミス・プリンセス・モモ

ミルフィー「凄い数だわ！！」

ミス・プリンセス・モモ「いくわよ！ブレイク・ライン」

ババババババババ

マリオに向かつて無数のエネルギー弾を発射するミス・プリンセス・モモ

バババババ

マリオ達はミス・プリンセス・モモの攻撃を次々と弾く
一瞬の隙を突き、バッガルフのすぐ前まで近づく

ミス・プリンセス・モモ「ドリルスクリュー———」

プリティーレインガーのドリルでバッガルフを攻撃するミス・プリンセス・モモ

バッガルフ「くつ、バッバリアン」

ギュウウ　ドバアア

間一髪バッバリアンを召喚し、ダメージを抑えるバッガルフ

ルリナ「ファイア・ウェップ！——！」

マリオ「ビッグ・ファイアボール」

バッガルフの援護に回るマリオとルリナ

ミス・プリンセス・モモ「ミラージュ・シールド！——」

ミラージュ・シールドでマリオとルリナの攻撃を跳ね返すミス・プリンセス・モモ

ミルフィー「マリオとルリナの攻撃が跳ね返された！？」

ミス・プリンセス・モモ「ミリージュ・シールドがある限り、プリティーレインガーにエネルギー系の攻撃は通用しないわ」

マリオ「ならまず普通のパンチやキックでそのシールドを壊すまでだ」

プリティーレインガーに攻撃をするマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「はあああ

上昇してマリオ達の攻撃をかわすミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「まずはお前だ、ジ・オブ・キャノン！－！」

プリティーレインガー 最強の技で攻撃するミス・プリンセス・モモ

バッガルフ「ぐわああああああ

マリオ&ルリナ&ミルフィー「バッガルフ！－！」

ジ・オブ・キャノンを受け、バッガルフが戦闘不能になってしまう

ミス・プリンセス・モモ「お前たちも倒されたくなかったらドリー・ムジュエルをよこしな」

再びジ・オブ・キャノンを撃とうとするミス・プリンセス・モモ

ルリナ「マリオ、そろそろ遊びは終わりにしましょ」

マリオ「そうだな、とつとつこれからドリームジュエルを取り返

そう「

ミス・プリンセス・モモが本気だったのに対し、マリオとルリナは今まで遊び同然で戦つてた

ミス・プリンセス・モモ「くたばりなさい！…ジ・オブ・キャノン！…！」

ドオオオオオオン

ルリナ「ファイア・ウェーブ！…！」

ファイア・ウェーブでジ・オブ・キャノンを弾き返すルリナ

ミス・プリンセス・モモ「ばかな！…！」

最強の技が跳ね返され、驚くミス・プリンセス・モモ

マリオ「これが最後だ、ドリームジュエルを返して、ここから出るんだ」

ミス・プリンセス・モモ「メフィスト様のため、ドリームジュエルは奪う！…！」

マリオの最後の警告も無視し、攻撃するミス・プリンセス・モモ

ルリナ「本当に痛い目に合わないとわからないみたいね」

ついに反撃に出るマリオとルリナ、どのようにしてプリティーレインガードを破壊するというのか！？

第52話終わり

第53話 マリオ死す！？ファイナルキャノンの威力

マリオ達とミス・プリンセス・モモの戦闘は続く

ルリナ「ヒートジャベリン」

ズガアアアアン

ヒートジャベリンでプリティーレインガーの胴体を貫くルリナ

マリオ「ボムドッカン！！」

ドオオオオン

さらにもマリオがそこを狙つてボムドッカンで攻撃する

ミス・プリンセス・モモ「バカな！このプリティーレインガーが負けるなど」

マリオとルリナの圧倒的な強さの前に焦りの色を隠せないミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「チエーンシザーカッター」

ガガガガガガ

プリティーレインガーのチエーンシザーカッターを真剣白羽取りで受け止めるルリナ

ルリナ「はあああああ

ボシュウウウウウウ ボロ……

ルリナは両手から凄まじい炎を出してチューーンシザーカッターを灰にしてしまう

ミルフィー「2人ともこのまま一気にやつつけて！！」

絶好調なマリオとルリナにミルフィーもテンションが上がる

ミス・プリンセス・モモ「こうなつたら……」

ミス・プリンセス・モモはプリティーレインガーのあるボタンを押した

ジユウウウウウ ……

マリオ「なんだ？」

ミス・プリンセス・モモ「ファイナルキャノンよ、この部屋もるとも消してやるわ」

数十秒後、ファイナルキャノンのエネルギーが満タンになつた

ミス・プリンセス・モモ「消えて無くなりなさい！…ファイナルキヤノン！！！」

ズドオオオオオオオオ

マリオとルリナにファイナルキャノンを撃ち出すミス・プリンセス・モモ

撃つた先にはマリオ達の姿が無かつた

ミス・プリンセス・モモ「やった！メフィスト様の邪魔をする者は
いなくなつた」

マリオ達を倒したと喜ぶミス・プリンセス・モモ、しかし……

ズガアアアアン

次の瞬間、背後から凄い衝撃が来た

ミス・プリンセス・モモ「なつ……」

後ろを振り向くとマリオとルリナがいた

実は攻撃が当たる寸前にマリオは次元技、ルリナは影の中に入つて
回避していたのだ

マリオ「とどめだ！－ビッグファイアボール！－！」

ビッグファイアボールで攻撃するマリオ

ミス・プリンセス・モモ「げげっ！まさか！？」

ドオオンドオオオンドオオオオオオ

プリティーレインガーは大爆発し、ミス・プリンセス・モモはドリ

ームジュエルを落として倒れる

ミス・プリンセス・モモ「しへじつたわ、今日のところは諦めたほうが良さそうね、だが次に会う時がお前たちの最期よー覚えときなさい」

ラビコンスマントムから撤退するミス・プリンセス・モモ

数十秒後、マリオはバッガルフを起こした

バッガルフ「マリオくん、あいつは?」

マリオ「逃げていったよ、ついでにドリームジュエルも」

手に入れたドリームジュエルを見せるマリオ

バッガルフ「おおーそうか、しかし……」

ミルフィー「ん?」

バッガルフ「あのミス・プリンセス・モモって奴、どこかで会つてるような気がするが……」

ルリナ「あたしも知ってる人のような気がする」

マリオ「誰なんだろ?」?

ミス・プリンセス・モモの正体を考えるマリオ達

マリオ「とにかく、残りのドリームジュエルも集めよつ

ミルフィー「あと3つで全部揃つわ」

ミス・プリンセス・モモの妨害を跳ね除け、ドリームジュエルを手に入れたマリオ達、残るドリームジュエルはあと3つ、次はどこに向かうのか

第53終わり

第54話 暴虐！荒ぶる海底王

「」は暗黒魔殿

ドリームジュエル奪還に失敗したミス・プリンセス・モモが戻っていた

シフォリア「みなさん、」紹介します、私たちの新しい同胞ミス・プリンセス・モモです」

ミス・プリンセス・モモ「あんたがマリオ達に負けた筋肉バカと大間抜けフェアリンね」

モンブラボ「なんだと！？」

パフェーラ「もつべん言つてみなさい！！」

バカにされ、激怒するモンブラボとパフェーラ

タルトウート「やう言つキ//もやられたそうじやない」

ミス・プリンセス・モモ「う、うるさい」

タルトウート「ヌフフフフ」

メフィスト「マリオ達は次のドリームジュエルのある場所に向かう筈だ、誰に行つてもらうか」

モンブラボ「自分にお任せください！メフィスト様！」

自分から出撃しようとするモンブラボ

タルトウート「僕もいくよ」

そしてタルトウートもそこへ向かうらじい

メフィスト「ではモンブラボ、タルトウートよ、ドリームジュエル
を奪つてくれるのだ」

モンブラボ＆タルトウート「はっ！…！」

モンブラボとタルトウートはドリームジュエルのある場所へ向かった

パフェーラ「あーあ、2人とも行っちゃった」

モンブラボとタルトウートが出かけ、退屈そうなパフェーラ

シフォリア「そう焦る必要はありません」

その頃マリオ達はラビリンスファンタムから出ていた

ルリナ「あと3つでドリームジュエルが全部揃うわね」

マリオ「ミルфиー、次のドリームジュエルの場所を教えてくれ」

ミルфиー「うん」

ミルфиーは静かに目を閉じ、ドリームジュエルを心を通わせる

数秒後、ミルフィーが目を開けた

ミルフィー「次のドリームジュエルは海底にあるわ」

次なるドリームジュエルは海底にあるらしい

マリオ「海の底と言われても」

ルリナ「どこを探したら……」

バツガルフ「流石にヒント無しで探すのは不可能に近いな」

海は広いのでドリームジュエルがどこにあるかわからない

一方こちらは海底のある都市

街中が大賑やかだ

海底住人A「私は一度でいいから地上を歩いてみたいわ」

海底住人B「一体どんなところかしら」

地上に憧れる海底住人たち

海底住人C「みんなーー隠れるーー王が来たぞーー！」

海底住人Cが王が来たとみんなに隠れるよつて言つ

海底王「わしに刃向つものはおらぬかーー」

鮫に乗つて暴れまくる海底王

数分後、海底王は通り過ぎていった

住人は海底王にビクビクしながら生活してゐるらしい

その頃マリオはドリームジュエルの情報をあつめていた

マリオ「どうだつた?」

バッガルフ「だめだ、全く手がかりなし

海底にあるドリームジュエルの情報を集めようとするマリオ達、果たしてドリームジュエルのある場所を聞か出すことはできるのか…?

第54話終わり

第55話 海底都市アクアリスの伝説

海底にある6つ目のドリームジュエルの場所を知りうる情報集めするマリオ達

ルリナ「6つめが海の底にあるのは分かつてゐる」

バッガルフ「その場所が分からんじゃどうしようも」

マリオ「せめて手がかりやヒントがあれば」

マリオ達は少しでも有力な情報を得ようと聞き込みを続ける

その頃モンブラボとタルトゥートはドリームジュエルがある海底を探していた

モンブラボ「何でお前までついて来るんだ?」

タルトゥート「キミだけじゃ心配だからね」

モンブラボ「あんな奴の一人や二人、このモンブラボ様一人で十分だ」

一方こちらは暗黒魔殿

ある部屋でミス・プリンセス・モモがブリティーレインガーを改造していた

ミス・プリンセス・モモ「まだまだメンテナンスが必要ね」

パフェーラ「あんたの出る幕は無いわ、あいつらを仕留めるのは私なんですもの」

ミス・プリンセス・モモ「負け惜しみを」

バチバチと火花を散らすパフェーラとミス・プリンセス・モモその頃マリオ達はドリームジュエルについて聞き込みをしていた
フランクリ「ドリームジュエルの場所は分からんが、海底都市の事なら知ってるぞ」

ルリナ「教えてください」

教えてくださいと、フランクリに頼むルリナ

フランクリ「大昔、海底で築いていった国があつた、その国のはア�アリス」

マリオ「ア�アリス？」

フランクリ「ア�アリスは海の底にある伝説の都市、そこに住んでる一部の者は地上に憧れている」

バッガルフ「そのア�アリスの付近にドリームジュエルはありそうだな」

一方こちらはア�アリス

王が過ぎ去り、ホツとする海底住人たち

海底住人A「王様、この頃変よね」

海底住人B「この前まではあんなに僕らの事を慕ってくれてたのに

海底王はかつて、人々から慕われる良き王だったらしい

そしてマリオ達はフランクリからアクアリスの情報を聞いていた

フランクリ「そしてこれがアクアリスの場所を示した地図じゃ」

アクアリスの場所が示された地図をマリオ達に渡すフランクリ

マリオ「ありがとうフランクリ」

バツガルフ「かなり古い地図だな」

ルリナ「今の地図と見比べてみましょ」

マリオはアクアリスの場所が示された古い地図と今の地図を見て、場所を特定しようとする

ルリナ「分かったわ！アクアリスがあるのは『ロッキタウン』の港とトロピコアイランドのちょうど真ん中辺りだわ」

バツガルフ「そういう事なら私に考えがある、この近くに新しく作った転送装置がある、それで一旦アジトへ戻つてそこからまた、ゴロツキタウンに」

マリオ「すぐ行こう」

マリオ達は転送装置で「ロッキタウン」へ向かうため、バツガルフについて行つた

数十分後、マリオ達は建物の前にいた

バツガルフ「この建物の中に転送装置がある」

建物の中に入つていくマリオ達

バツガルフー まずはこれで一田アジトへ戻ろう」

マリオはボタンを押し、転送装置を作動させる

転送装置でメガバッテンのアジトへ向かおうとするマリオ達

アカアリスを見つけることができるのか？

第三章

第56話 潜れマリオ！海底を目指して

転送装置でメガバッテンのアジトへ向かうマコオ達
そしてこじらはメガバッテンのアジト

研究員の一人が新薬の開発に熱中していた

ウイィィイン

メガバッテンのアジトに来たマリオ達

研究員「バッガルフ様！？」

ミルフィー「こじがバッガルフさんのおひですか」

ルリナ「いや、おひちじやなくてアジトなんだけど」

バッガルフ「すぐにまた出かけなきゃならないんだ、行き先を『ロツキタウンの地下にしろ』

研究員「はい、ただちに」

バッガルフの命令で、転送装置に行き先を『ロツキタウンの地下にする研究員

研究員はスイッチを押し、マリオ達を『ロツキタウンの地下にする研究員
数十秒後、『ロツキタウンに地下に着いたマリオ達

ミルフィー「船とかどうするの?」

マリオ「船ならもう用意できてるね」

ルリナ「コルテスの船ね」

マリオ「その通り、土管で地上に出よう

マリオ達は土管で「ロロシキタウン」の地上に出た

一方こわいは海底

アクアリスから少し離れたところで海底王が不気味な笑いを浮かべていた

海底王「もう少しでこの海を……様のものができる

ミズクリボー「……様、おかえりなさい」

アクアジュゲム「……様、次はどうするおつもつ?」

海底王「そうだな……」

住人達を脅かす次の手段を考える海底王

その頃マリオ達は「ロロシキタウン」の港に来ていた

マリオ「コルテス、久しぶり」

「ゴルテス、マリオではないか！少し見ないうちにまた腕を上げたな

ルリナ「それよりあたし達を連れてって、ドリームジュエルを見つ
けなきゃいけないの」

ゴルテス「ドリームジュエル？なんだそれは？」

ルリナ「これよ

ゴルテスにドリームジュエルを見せるルリナ

ゴルテス「これがドリームジュエルか……」

バツガルフ「ゴルテス、ドリームジュエルについて知ってる」とは
？」

ゴルテス「そういえば、最近、海に流れ星のようなものが落ちて來
たんだ」

海に投がれ星が落ちたと話すゴルテス

その頃モンブランボとタルトワートはボートで海上を走っていた

モンブランボ「情報によると、ドリームジュエルはこの辺りの海にあ
るはずだ」

モンブランボはボートから降り、海に飛び込む

それに続きタルトワートも海に潜つていった

その頃マリオ達は「ゴルテスの船で海の上を進んでた

ゴルテス「じうじへると皿を運び出すわ、あの時マルコはまつり
と腹がたつたけど」

マリオ「でもそのおかげでメガバッテンを追に出すことができたん
だ」

昔の事を語り合ひながらマリオとゴルテス

話をじめ始めた。「アントワネットのアントワネットの真ん中だ、
真ん中にいた

ゴルテス「ここが『ロシキタウン』と『ロシアタウン』の真ん中だ、
俺様はここで待機するわ」

マリオ「よし行くぞ

マリオ達は海の中に飛び込んでいった

ひたすら下へと泳いでマリオ達

すこし進むとドクゲッソーが現れた

ミルフィー「ドクゲッソーよ触れただけで毒に侵されてしまつわ

不思議な力でドクゲッソーを調べるミルフィー

バツガルフ「ミリフィーニング」

小さな電撃で攻撃するバツガルフ

ドクゲッソーを追い払い、先に進むマリオ達
海底を目指し、ひたすら潜るマリオ達、アクアリストとはどんなところなのだろうか？

第56話終わり

第57話 モンブランボ再び

海底のアクアリスを目指し、ひたすら潜るマコオ達

離れた所ではモンブランボとタルトゥートが泳いでた

モンブランボ「アクアリスまであとどのくらいだ?」

タルトゥート「まだ随分あるよ」

モンブランボ達もアクアリス目指して海底へ向かう

その頃マリオ達はミサイルブクと遭遇した

マリオ「なんだプクプクか、ファイアボール」

プクプクと勘違いしてファイアボールを投げつけるマリオ

ドオオオオオン

ファイアボールが当たった途端、ミサイルブクは大爆発する

ミルフィー「あればミサイルブク、火に反応して大爆発するわ」

ルリナ「普通のプクプクと見極めてから攻撃しないと」

普通のプクプクとミサイルブクを見極めるように肝にめいじるマコオ達

オ達

進んでいくとまたブクブクが襲ってきた

ルリナ「今度は普通のブクブクね、えい」

普通のブクブクと見破り、炎で攻撃するルリナ

その頃アクアリスでは海底王がまた住人たちを脅かしていた

海底王「わしに殺されたい奴は刃向うがいい」

好き放題に暴れまわる海底王

海底住人「おのれ王め！」

我慢の限界に達した海底住人の一人が海底王に立ち向かう

海底王「少しば勇氣のある奴がいたか

海底王に立ち向かうが、返り討ちにされてしまう

海底王「この王の身体は素晴らしいぞ」

自分の身体を素晴らしいと言ひ海底王

その頃マリオ達はアクアリスを目指して泳いでた

離れた場所でもモンブランボ達がアクアリスを目指してた

数分後、マリオ達とモンブランボ達が遭遇した

「マリオ&モンブランボ」「ああ～～～～！」

マリオ「お前はモンブラン」

モンブランボ「モンブランボだ！！」

名前を間違えられ、激怒するモンブランボ

バッガルフ「マリオくん、ここには？」

マリオ「メフェストの手下だ」

ルリナ「あいつらも『』のドリームジュエルを狙ってるみたい」

タルトウート「僕もいるよ」

タルトウートが次元技を解除して現れた

モンブランボ「ここには俺一人で片づける、お前は手を出すんじゃないぞ」

タルトウート「じゃ、お手並み拝見させてもらひつよ」

クルン

タルトウートはモンブランボの戦いを邪魔しないよう、次元技を使って見物する

ルリナ「この前あんなにコテンパンにされたのにまだ懲りないの？」

モンブランボ「今度はお前達がコテンパンにされる番だ」

今度こそマリオ達を倒そつと、気合満々のモンブランボ

ミルフィー「何度来ても同じよー。」

マリオ「アクアリスに行く前に準備運動とするか

戦闘態勢に入るマリオ達

再び始まろうとするモンブランボとの戦い、勝利の女神はどうひで微
笑むのか？

第57話終わり

第58話 水中の激戦！～モンブラボ

水中でモンブラボとの戦闘になったマリオ達

バツガルフ「サンダー・ボール！！」

バツガルフのサンダー・ボールで戦闘開始だ

サッ

モンブラボ「トルネードタイフーン！！！」

サンダー・ボールを避け、トルネードタイフーンで反撃するモンブラボ

ギュオオオオオオ

しかも水中なので巨大な渦が襲つてくる

渦から逃れるマリオ達

マリオ「危なかつた」

ルリナ「この前よりパワー・アップしているわ

モンブラボ「モンブラボパンチ！！！」

パンチで攻撃するモンブラボ

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

それに対し、ルリナもカゲぬけパンチで対抗する

ドオオオン

互いのパンチが激しくぶつかりあう

ルリナ「たあああああ

モンブラボ「ぐあああああ

ルリナの方が上回っており、吹っ飛ばされるモンブラボ

その頃離れた場所では海底王が鮫に乗つて移動していく

海底王「グフフフフフ」

不気味に笑う海底王、その手にはドリームジュエルが握られてた

一方こじあらはスイートランデ

祭壇の上に一人の少女が座つてた

そこへ女王がやって来た

女王「オリーブ元氣ないわね

オリーブ「はい、ミルフィーの事が心配で」

オリーブはミルフィーの友達らしい

女王「本当なら今頃は星の祭壇で祭り気分なのに」

オリーブが座つてた祭壇は星の祭壇らしい

その頃マリオ達はモンブラボとの戦闘中だ

モンブラボ「ふん！－」

マリオ「ぐほおおお」

腹にモンブラボの攻撃が直撃

その隙にルリナとバツガルフが挟み撃ちに成功する

モンブラボ「しまった」

ルリナ「終わりよ、ファイアビーム！－！」

バツガルフ「ライトニングスパークル！－！」

ゴオオオオ　バババババ

ダブル攻撃でどごめを刺すルリナとバツガルフ

モンブラボ「うおおおおおおおおお」

ダブル攻撃でモンブラボを倒したマリオ達

モンブラボ「またしても……」

タルトウートが次元技を解除して現れた

タルトウート「次の手は考へてあるよ」「

モンブラボ「その次の手はとは?」

タルトウート「それはここでは言えないよ、そろそろ行へよ」「

パシュン

瞬間移動で去つていくタルトウート

モンブラボもタルトウートを追つていった

マリオ「あぶないところだつたな」

ミルフィー「アクアリスはもうすぐよ」

モンブラボ達を撃退し、再びアクアリスを目指すマリオ達

泳いでいくと下に大きな街があつた

ルリナ「ねえ、あれがアクアリスじゃない?」

バッガルフ「きっとそうだ、間違いない!」

モンブラボ達の妨害も跳ね除け、マリオ達はアクアリスに到着した
のだった

第58話終わり

第59話 海底王を倒せ！必殺ダブルパンチ

モンブランボ達を撃退し、アクアリスに着いたマリオ達

ルリナ「ここがアクアリス」

バッカルフ「まさか海の中に街があるとは驚いたぞ」

数十秒後、マリオ達は海底に着いた

「？？？」「キミだれ？」

海底住人の一人がマリオ達に問いかける

マリオ「俺はマリオ」

ルリナ「あたしルリナ」

バッカルフ「バッカルフだ」

自己紹介するマリオ達

「？？？」「僕はウミピオっていうんだ」

マリオ「なあウミピオ、ドリームジュエルを知らないか？」

ウミピオ「そう言えば王様がいつも宝石を持っていましたよ

ルリナ「もしかして、こんな形じゃなかつた？」

「アリオにドリームジュエルを見せるルリナ

「もうー。その形の宝石だつたよ」

王がドリームジュエルを持つてゐ事を知つたマリオ達

「アリオ「でも王様には逆らわない方がいいよ、逆らつて僕らみんなひどい目に合つただ」

ミルフィー「ひどい」

ルリナ「ゆるせないわね」

王の暴虐非道ぶりを聞き、怒りをあらわにするマリオ達

「アリオ「前はあんなに優しかつたのに」

海底王は以前は優しかつたらしい

「アリオ「どうしてあなたがちつたんだ?」

バッカルフ「私達が王の目を覚ませてやる」

話してゐうちに海底王がやって來た

「アリオ「王様だ!」

海底王「ん?なんじやお前たちは?見かけないツラだな」

マリオ「今すぐアクアリスの人たちを脅かすのをやめてドリームジユエルを渡せ！！」

怒って海底王に要求するマリオ

海底王「逆らう気か？ならば死あるのみだ！！」

戦闘態勢に入るマリオ達

海底王「むん！」

水の槍で攻撃する海底王

ルリナ「カゲがくれ」

シユウウウウン

影の中に入つて攻撃をかわすルリナ

マリオ「ファイアボール！！！」

海底王「レインボール！！！」

バシュウウウウウ

ファイアボールとレインボールがぶつかりあつて相殺

そこへバツガルフが間髪入れず攻撃を加える

バツガルフ「サンダーショット」

海底王「アクアウオール」

アクアウオールでサンダーショットを防御する海底王

マリオ「ファイアナックルパンチ！…！」

ルリナ「カゲぬけパンチ！…！」

ド「オオオオオン

海底王「ぐわああああああ

ダブルパンチで海底王をやつつけたマリオ達

ルリナは海底王が落としたドリームジュエルを拾った

ミルフィー「今回は楽勝だったね、探すのに苦労したけど」

以外にもあつせいの6つのドリームジュエルを手に入れたマリオ達、
残る2つは果たしてどこに？

第59話終わり

第60話 裏切りのルリナ

海底王を倒し、ドリームジュエルを手に入れたマリオ達突然、海底王から何かが飛び出し、ルリナの中に入つていった

数秒後、海底王が起き上がった

海底王「う……う……、ここは？私は今まで何を？」

バッガルフ「このやうにまだ生きていたのか」

海底王「このあつせうまじうじたことか」

バッガルフ「とぼけるなーこれはお前がやつたんだだらうが」

海底王「私が……、いえ何も覚えてません」

海底王はアクアリスを襲撃したことを覚えてないらしい

バッガルフ「なら貴様の脳に電気ショックでも起こして」

マリオ「待てバッガルフ！」

バッガルフを止めるマリオ

マリオ「本当に何も覚えてないか？」

海底王「はい」

マリオ「ルリナ、おいルリナ」

ルリナを呼びかけるマリオだが、彼女は沈黙していた

ミルフィー「ルリナさんどうしちゃったの？」

ルリナ「はああああ

「オオオオオオ

炎でマリオ達を攻撃するルリナ

マリオ達はルリナの攻撃をかわす

マリオ「何をするんだ！？」ルリナ

ルリナに向かつて激怒するマリオ

ルリナ「これはいい、前の男より断然強い体だ」

バツガルフ「ム！ルリナくんに憑依してる貴様！貴様は何者だ！？」

ルリナが何者かに憑依されてるのを見抜いたバツガルフは問い合わせた

？？？「俺様の名はパラトイサー」

海底王が暴虐を起こすようになったのはこのパラトイサーの仕業らしい

そして今はルリナに寄生していた

パラトイサー「あとで」の炎でお前らもともアクアリストを」の炎で消し去ってくれる」

マリオ「ファイアボール！…！」

パラトイサー「ふん」

ドオオオオオオン

マリオ「うあああああ」

バツガルフ「マリオくん！」

パラトイサーの攻撃で吹っ飛ばされるマリオ

ルリナに寄生しているので、海底王の時とは桁違いだ

ミルフィー「マリオー！…！」

パラトイサー「ハハハハハハハ」

パラトイサーは高笑いして去つていった

数分後、マリオが起き上がつたが、パラトイサーはもうそこにはいなかつた

海底王「あのパラトイサーは寄生生物の一種かも知れない」

バツガルフ「寄生生物って、他人の中に入り込んで思い通りに操る
生物だろ」

海底王「その通り、今そのパラトイサーはキミ達の仲間の一人に寄
生してる」

マリオ「行こう! ルリナとドリームジュエルを取り戻すんだ」

ミルフィー「うん!」

バツガルフ「うむ」

マリオ達はパラトイサーからルリナとドリームジュエルを取り戻す
べく、動きだしたのだった

第60話終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4937r/>

ミラクルスーパーペーパーマリオ

2011年11月27日13時45分発行